

The Kansai University Bulletin

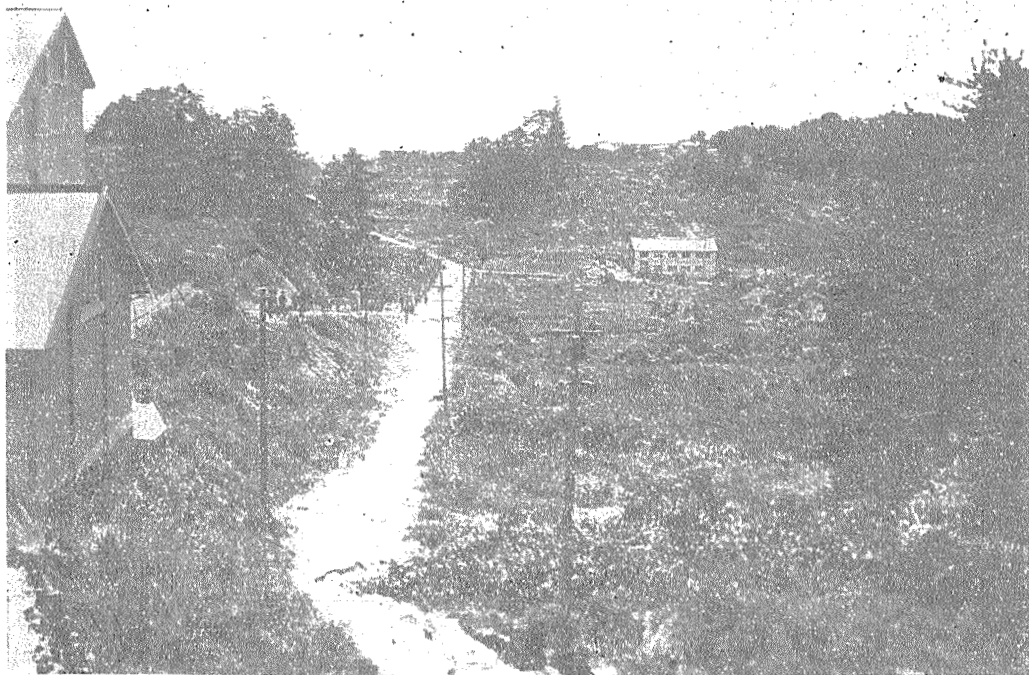
Osaka, October 15th, 1923.—No. 13

報學山里千

行發日五十月十

號三十第

年二十正大



(二のそ景八山里千)近附通曙るた見りよ室教科像

阪大

番九四〇一 } 堀佐土話電
番〇七五五 }

局報學學大西關

座口金貯替振
番五七八二一阪大

千里山學報 第十三號

目次

挿 繪——豫科教室より見たる曙通附近(表紙)

—ガウエン博士よりの來信—沖中恒幸氏—ホン
コン大學—ハイデルベルヒ大學—ドイツ市民の
窮狀—千里山學舍に於ける第二學期始業式—今
橋ホテルに於ける沖中留學生歡迎會—千里山學
友會地方遊説隊の自動車宣傳—ウィーン大學—
竣成せるパリ學生境の一部

未曾有の大事變と本學學生の使命
關西大學總理事 山岡 順太郎
疲弊せるドイツより歸りて
關西大學講師 沖中恒幸
ウエスレーミその宗教運動(承前)

關西大學講師 櫻井 匡
學内報—第二學期授業開始—第二回供託金納
付—專門部學生補缺入學許可—千里山學舍第二
學期始業式—教員囑任—本學擴張事業促進計畫
—罹災學生の轉學許可—日曜自由講座新設—沖
中留學生歡迎會—千里山學舍第四回例會—岩崎
教授よりの來信—森下留學生よりの近信—佐竹
理事の大阪市電氣局長就任

校友の面影—日向幸藏氏—飯田清藏氏
校友會報
學生彙報
關西甲種商業學校彙報

雜 錄
The Historical Sketch of Kansai University

未曾有の大事變と本學學生の使命

(第二學期始業式式辭摘錄)

關西大學總理事 山岡 順太郎

長い休暇を終へ、茲に勇氣勃勃として
登校せられた學生諸子を迎へることは
私の最も欣快とす
るところである。

何人も知る如く、
この休暇中には東
京その他數縣に巨
つて大震災が起
り、その被害慘烈
を極めたことは實
に名狀すべからざ
るものがあつた。

幾萬の生命を失つ
たものは勿論、職
を失ひ家を失つた
遭難者に對して、
誠に同情に堪へな
いのは申すまでも
ないことである。

尙ほその外諸君と
共に特に遺憾に思
ふのは、日本を代
表する文明が、學問的に將た又經濟的
に、殆どその根柢から覆へされたと云
ふことである。殆ど恢復の見込さへつ

*Dr. Herbert H. Gowen and Mrs. Gowen
beg. to announce their safe arrival in the United
States and to express grateful appreciation of
all the kindness and courtesy accorded them
during their recent trip.*

University of Washington Seattle, August 1923

信來のりよ士博ソエウガ

かぬ状態に立ち至つたことは、誠に悲
しみに堪わぬところである。
併しながら一
面より之を考
ふるに、我國
は從來その文
明が、學問に
せよ、商工業
にせよ、その
他百般の施設
に至るまで、
餘りに帝都に
集中し過ぎて
ゐたかの感が
ある。

我國は、
ゆる文明を、
帝都にのみ集
中した國は、
恐らく世界中
他のどこにも
見出し得ない

であらう。故にこの大事變を機會とし
て、即ち今回の禍を轉じて福となすた
めに、日本の文明は西に向つて流れな

ければならぬ、少くともその文明を東
西南北に離散せしめなければならぬ
と思ふのである。

歐洲大戰の結果、西洋諸國が學問的に
も、又經濟的にも非常の困厄に陥つた
今日に於て、諸子の學問研究なるもの
は正に歐洲諸國とその地位を代ふるに
至つた。即ち結局學問研究をなすもの
は、我日本の學徒たらざるを得ないや
うになりつつある。而もその日本の中
に於て、特に學問研究の中心とせられ
てゐた東京が打壞された今日、學問研
究の任務は、實に諸子の双肩に一層の
重荷を加へたものであると言はなけれ
ばならない。

かくの如く大きく見て、世界的に學問
研究に行詰つた時、東に於ける同胞學
生が更に研究の手段を奪はるるに至つ
た際、諸子が平安にその研究を續ける
ことの出来る境遇に立つと云ふことは
眞に至大の幸福であると言はなければ
ならぬ。而してこの幸福なる諸子は、
今私が述べたところの重大なる責任を
擔ふものであることを、特に念頭深く
銘刻して忘れざらんことを望んで已ま
ない。即ちこれを第二學期劈頭に於け
る告辭として一言する所以である。

疲弊せるドイツより歸りて

關西大學講師 沖 中 恒 幸

唯今獨逸の現状の一端に就いて簡単に御話しやうと思ふが、御存じの如くに最近の獨逸の狀態は恐らく急激にして捕捉し難き激變そのものご申してもよいのであつて、今日の獨逸ご一週間前のそれは全くその有様を異にするのである。従つて嚴密なる意味に於いてその現状を申上げることは今國內に住める者のみに許されたる權利ではあるが、今日僅かに新聞紙によつて見るに同國の狀態は總體として唯暗黒の方向に向つて走り續けるが如くであるから、私のこれから申上げやうとする所の、私の二ヶ月前迄生活して來た獨逸の傾向は今尙引續き同じ方向に進みつつある所のものご主張し得られるが如くである。



沖 中 恒 幸 氏

態の大體の傾向は察することが出来るのである。更にその經濟的狀態ご言つても交通、金融、貿易、生産、消費、分配等ご多くの異つた方面から見得るのであるが、大體同地の經濟狀態は一見にして知り得るのに一番便利なるものは何であるかご言へば、吾々が日本新聞紙に於いても屢報道を受ける所のマーク相場である。マーク相場が壹圓に對して一萬になつたごか十萬になつたごか云はれるのは、決して夫だけのことごして、即ち獨逸の人間の總てが本當に名目通りのミリヨネーヤになつただご言ふだけの簡単な出來事ではなくして極めて複雑にして直

接的な影響を、同地に住む一人一人の毎日毎日の生活の上に来しつ々あるごころの現實の問題である。マークの急激なる下落はオーバ・シレシヤの問題から初まつて、去年の六月の初め頃壹圓に就いて百二十マーク位になつたのであるが更に六月の終りに近く外務大臣ラテナウの暗殺があつた。國民黨員の手によつて殺されたご言ふので社會主義各黨等の激しい示威運動が行はれた。その騒ぎが更にマーク相場に重

尤も現状ご言つても、宗教的に倫理的に政治的に經濟的にその觀方の相異に従つて色色な現状があるが、一切社會狀態の根本にあつて其色調を約束する所のものは經濟狀態である唯今これに關して起り來る所の困難な哲學問題に入るごことはさけて少くごも現今の獨逸、それは唯専らに衣食住、ご申すよりもむしろ唯食料のみを得るごことにさへ總ての精神ご身體ごを傾け盡さねばならないその獨逸に於いては、唯經濟狀態の有様をさへ見れば他の狀

要な力を及ぼしてごんごんご下つて行つた。八月の終頃には恐らく壹圓に就いて四百一五百マークになつて居たご記憶して居る。下落は鼠算の激しさを以て續けられて年末クリスマスの頃には三千より四千マークのあたりを上下したのであつた。新しい年をむかへた一月の八日は即ち獨逸國民にまつて最も悲しい記憶の日、ルール地方占領が佛國軍隊によつて開始された日である。この重大な損失に當つてマーク相場の上にも非常な狂ひを重ねるごことは當然であつた。果然一月の終りには壹圓二萬マークご言ふ驚く可き數字を見、政府はこれが爲めに不眠不休の努力を盡したがご

うするごことも出来ない。遂に二月に至つて秘藏の金貨金塊の全部を吐き出して、貨幣準備金に備へる一方色々な法令を連發して、爲替の投機取引抑壓に努力した結果、二月半頃から四月の初頃に至る間は壹圓一萬マーク上下の相場を維持することが出來た。然し僅かの金貨金塊はさう長く力を保つことが出來なくて、内地農業工業の狀態、對外交渉の問題等事に獨逸に不利なる所の出來事は再びマークの下落ごして表はれ、六月の初めには壹圓四萬マーク、七月の終りには十五萬マークとなり、それから二ヶ月を経た今日にては遂に壹圓に就いて千萬マークになつて了つたごことが報ぜられてゐるのである。

マークがかくも下落しなければならぬ所の原因に就いては種種説の別れる所であつて、今論ずるごことは出來ないが、兎に角も事實の問題ごしては、政治的經濟的の不安、悲觀の増す毎に大きな階段を示して下落して居るのであつて、そこに銀行家その他の投機的要素が

餘程多分に含まれて居るごことも事實であるご思はれる。

さてこれ等マークの激變が單にマークの下落に止まつて居るのならば別に大して差支はないのであるが、事實に於いて獨逸貨幣價値の下落は直ちにそれだけ物價騰貴ごなつて國民一人一人の生活を脅すのである。勿論品物によつて多少の相異は免れないにしても、大體マーク相場の下落ご平行して物價は騰貴するのであつて、去年中まだ貨幣相場の變動が今年のご如くでなかつた時は、物價騰貴は常に四五日又は十日位遅れて市場に現はれたのであるが、去年末から今年にかけては早くは數時間、遅くも一夜を距つてマーク相場がその儘市場小賣價値の上に乗れるやうになつた。今日の爲替市場に於いてマークが五割下つたごする。翌朝一般市價は直ちに其影響を見せて五割見當、ある物の如きは六割七割の騰貴を示して居る。前申上げた如くに去年六月から今年六月頃迄にマークは百二十位から四萬迄即ち約三百四十倍餘りの下落をしたのであるが、その間物價の騰貴は更に激しい急角度を示して居る。試みに私自身の經驗した小賣物價數を顧るご、去年の六月頃一本十マークのパンが六月には一本五千マーク見當即ち五百倍であり、二千マークの洋服が百萬マーク見當に上つて居た。三マークの電車賃は三千マーク即ち千倍になり、四マークの汽車賃が八千マーク即ち二千倍になつた。物價騰貴が激しいご言つて獨逸人が經驗しつ々あるが如きは有史以來會つて無かつたに相違ない。一夜明くればパンの値段が二倍になり、一週間後バターの値段が三倍になるご言ふ事は到底何

人にも相像し得ない驚きである。然らば何故 者の数を増加せしめるのである。

速かに市場相場として表はれるかに就いては可なり困難な問題が研究を待つて居るのであるから今日の御土産話として除いておく可きことかと思はれる。

物價マーク相場との平行運動は上述の如くであつて、もしこれが極めて徐徐に行はれるものであるならば、さまで大した問題となり得ないとも思はれるのであるが、目下獨逸に於いては上述の如き急激なる勢を以てするのであつて、驚嘆す可く悲しむ可き社會状態の因はこの激變の内に育てられるのである。何となれば一切の豫測をして不可能ならしめる所の物價の底なき急變は生産力の發揮を不能ならしめると共に、恐ろしき分配の不公平を來すのである。更にこれは一方極端な奢侈並に浪費をあふり立てる



(僅か片のパンを購ふために群集する商店の頭目) 市民の惨状

獨逸に於いても物價が騰貴すれば、その跡に從つて國民所得の貨幣的量は勿論増加して行くのである。特にゼネラル・ストライキの強力な武器をもつてゐる

労働者の所得は、恐らく物價騰貴以上の率を以て上つて來たのである。若しこの所得の増加が完全に物價騰貴と平行し得るものであるならば、特に兩者の騰貴が時間的に同一時に於いて行はれ得るものゝすれば割合に問題は簡單であり得るが、筋肉並に精神労働者の所得は常に十日或は二三週間の距離をおいて物價を追ひかけて行くに過ぎないのである。この十日或は二三週間の間を如何にするか。僅かの日數ではあるが、常に翌朝の問題に差迫つた所に全力を傾注しなればならなくなつた獨逸の人達に探つてこの十日或は二十日は物價の騰貴がせめて

二割三割なら何にか出来るが、常に幾倍も言ふ高率な躍進を續ける場合、問題は全然本質的に異つたものとして現れる。特にこの内に於いても悲惨なのは寡婦その他年金恩給によつて生活しなければならぬ人達、獨立して生活す可き状態にある所の婦人、銀行員、會社員、工場技師等教育ある人達並に小商人である。政府の財政が極端に迄困却して居る所から恩給の如きは到底物價に比例し得ないのみか、數年前は立派に中流生活をするに充分な額を貰つた人達が、今や月一本のパンと一斤のバターにすら事欠くが如き例も多い。青年の戦死によつて結婚の希望の少くされたのに加ふるに、生活の極端な困難から一層その希望を無くした所から無数の老若婦人が求職をする。従來から婦人の地位が米國英國等より遙かに低い所へ、急激な婦人求職者の増加の爲めに婦人の所得は非常に低くして、僅かに室代とパン代を得る位の程度に止つて居る。

デパートメント・ストアの女賣子等の収入は大體に於いて日本金の八・九・拾圓位である。如何に獨逸も月拾圓ではさうする事も出来ない。而かも月拾圓の賣子等は容易に見出し得ぬ高給である。更に銀行會社員技師の如きは團體の缺乏からしてストライキの武器を持たず從つて所得の増加率は極めて少い。工場の技師よりも職工の方がはるかに多くを得る言ふ例は吾々の屢見聞した事實である。小賣相場が毎日のやうに上るが故に小商人は大いに儲けつつあるが如くに一般に考へられる場合が多いのであるが、事實はさうでない。小賣相場は卸値の上る五割から十五割位をかけて賣りつつあるのであるが、それでも餘程

卸値の運動に注意して居ない折角賣り上げた金を以てしては再注文を出しても支拂ふ事が出来ないことになる。まさか毎日賣つて得た金で毎日注文する解にも行かず、さうしても注文は五六日置きが一週間後のことになる。そのうちに卸賣位段はゲン／＼上り詰める。結局する所賣れば損になるし賣らねば賣つて行けぬと言ふ有様である。されば言つて肉體労働者の全部が好いかと言へば仲仲さうではなくて前述の如く勞賃の増加の甚しい所から普通の利潤しか得られぬ事業では收支償ひ得ないと共に愈努力の節約をやる。鐵道院が冗員を淘汰をやるさなれば一度に數萬人の失業者が出来る。不安な獨逸に見切りをつけて資本が外國に逃げ出す所からここにも失業者が増加する。即ち職にある者の勞賃は割合に好いが一方に反つて失業者がさうさう増して行くと言ふ状態である。かくの如く經濟界が破壊されて了つた以上失業保險も養老保險も職業紹介所も、さすが獨逸のこれ等施設の一切はその機能を發揮し得ないことになつて了つた。

然らば獨逸國民の一切がこの苦しい目に會つて居るかと言へばさうでもない、極めて少しの割合ではあるが數から言へば多數の成金が輩出して居る。即ち大きな資本家並に投機業者特にマーク相場の投機業者である。戰爭が初まつても止むでもこれ等の人は財産増加の手段を發見して行くものを見つて、破産に向ふやうな獨逸の内にも益太つて行く資本家も多いのみならず、マーク相場の上下を利用して二三年の間に驚く可き富を掻き集め得た

誠に生命の問題である。物價の騰貴がせめて

(以下第二五頁へ續く)

研究

ウェスレーとその宗教運動 (承前)

關西大學講師 櫻井匡

七回 心

米國デューリアに於ける三年間の彼が傳道は失敗であつた。然し彼の一生、彼の事業に於て大なる意義を有するものはこの三年間の失敗の在米傳道の經驗であつた。殊にモレービアン派を知るやうになつたことは彼の運動が擴大され、永遠化するに至つた一大原因と云ふべきである。

彼がオックスフォードに於ける神聖クラブの運動も着着發展の途に就き、大學を中心として大いに感化を興へ、民心を動かしつつあつたことは事實であるが、あのままにしてその運動がなげほまで發展し得たか、恐らく彼の後のメソヂスト運動の影をなし得なかつたであらう。またかりに父の後を繼いでエプウオースに於て牧界に立つたとしても大した働きは爲し得なかつたと思はれる、只彼が比類なき大運動を起し英國を墮眠より醒まし、一世を感化し得たものは實にその源を彼の回心に認めなければならぬのである。而かも彼が回心を促すべく迫つたものはモレービアン派の信仰であり、三年間のデューリアに於ける失敗の傳道がその契機である。彼は敬虔なる父母の教養によつて宗教的訓練を得ては居つたが、それは外から被せられ覆はれたものに過ぎなかつた、未だ内より發した、自

ら芽生したものではなかつた。周囲の境遇、四圍の事情が如何に強く宗教的力を以てしてもその人自身に自發的な自れを支ふる堅固な信念がないならば眞に強く立つことは出来な。如何に周囲の人人が彼に宗教的運動を爲せしめても、強要しても大いなる活動は爲れず、當り前の牧師以上の働きは爲したかも知れないが、彼の爲した如き大運動は爲し得なかつたであらう。

彼がこの回心の動機となれるものはモレービアン派の信者の信仰であつたことは前にも述べたところであるが、彼がこの派の信者となるに至つたのはデューリアに向つて出帆してからのことであつた。モレービアン派の信者を吹き荒した暴風雨に際しても一向に平氣で少しも驚く様子もないのに、驚きかつあやしんで居つたが、彼は一人の信者に向つて『怖ろしくは感ぜずや』と尋ねる、その信者は『私は神に感謝することを知つてゐます』と答へて、神の御攝理を疑ひ恐れることを知らな

い云ふやうな態度なのにますます驚いた。これが彼がモレービアン派の人人の信仰の堅固なるに驚畏の念を抱いた最初であつた。それ以來彼は絶えずモレービアン派の人人の信仰に注意し、Savannahに上陸するや先づ此地のモレービアン派の一長老 August Gotlieb Spangenbergを訪ね種助言を得た。彼が當面の問題である、新しき傳道開始に就いて助言を求めた時、彼の長考は先づ『内心の證據を持つてゐるが、即ち汝は聖電の證を以て神の子であるを信じてゐるか』と尋ねた。デュー

彼は更に『イエス・クリストを知つてゐるか』はれてこれに答へることが出来なかつた。併しこれ以來彼は内心に深く反省して自らを批判するやうになり、回心の動機を作つたのである。

環境の感化刺戟によつて起す宗教經驗は内發的の經驗でなく、外部からの感化や刺戟を自分が意識した程度のものであるが故に、外部の刺戟の大小強弱に應じてその經驗にも大小強弱の差を生じて來るものである。併しかかる宗教經驗は恰もあやつり人形の如く、背後にある人形師たる環境の力を失へば同時に消滅することが多いのである。併しジョン・ウェスレーの場合に於ては只單なる環境の力のみが彼を動かしたものでない。彼はサバンナに於ける約二十年の間の傳道中絶えずモレービアン派の人人と交通し、その感化刺戟を受けはるたが、只モレービアン派の感化刺戟のみが彼の宗教經驗を支へたものではな

い。彼の内心は絶えず内省し、煩悶しつづけ

て居つたのである。勿論モレービアン長老スバンゲンバーク氏の言葉は絶えず彼の心に痛みであつたが、これに更に一層の痛みを與へ、省察を精進を促したものは彼が傳道に於ける失敗の經驗であつた。

彼の傳道は失敗であつた。弟チャールスは Feduca に在つて傳道を續けて居つたが僅か六ヶ月ばかりの後、Osethorpe の意見の衝突をして英國に歸らなければならなくなり、彼はまた當地の人人の信用を失ひ、殊に Miss. Hopkey と戀愛關係を起してますます信用を失ひ、止まつて傳道することが出来なくなり、一七三七年十二月二十二日逃けるやうにして米國の地を去つたのである。併しこの失敗はいよいよスバンゲンバークの言葉を想起させ、ますます深く内省し内心の證據を得んがために精進するやうになつたものであつて、決して無益ではなかつた。彼は後にその日記に記して『私が色色に決心を立てて居つたにも拘らず、神が私を米國に來るやうにしたことに對して私は感謝すべき多くの理由がある。神はこれによつて私の高ぶりを低め、私を試練し、そして私の心に何物があるかを明かに見せて呉れたことと信じてゐる』と云つてゐる。

かくしてオックスフォードに於ける神聖クラブを中心とする云はば第一次メソヂスト運動は、その活動の範圍を擴張して米國にまでも及ぼさんとしたのであつたが、それは却つて失敗に終つたのである。併し第一次メソヂスト運動が衰頽しつつある間に第二次メソヂスト運動は發生しつつあつた。第一次運動の精神は英國國教會の精神を主とし、新約聖書の

中心精神の一部分的のものに根據を置いたものであつた。併し第二次運動に於てはこれまでの傳統的信仰、他人から教へられたままを信じて安んずる信仰に満足せず、キリストと共に在りまの強き信念を基礎として爲されたのであつて、彼は正にその宗教經驗の途上に在つたのである。彼は歸國の航海の途中心の煩悶を告白してその日誌に誌してゐる。

『私はアメリカの土人を改心せしめやうとしてアメリカの地に赴いた。併し誰が私を改心せしめて呉れるであらう。……私は美しい夏の衣のやうな宗教を持つてゐた。私は語ることをよくし、而して何ら危険の身に迫らざる間は動かない信仰を以てゐるやうである。けれども、一度死に云ふ暗い影が私を襲ふ時、私の魂はふるひおののくののだ、……暴風雨の中に在れば私は神の福音は眞理かしらに疑ふのだ、……ああ誰か私をこの死の恐怖から救ふて呉れるものであらうか』云。

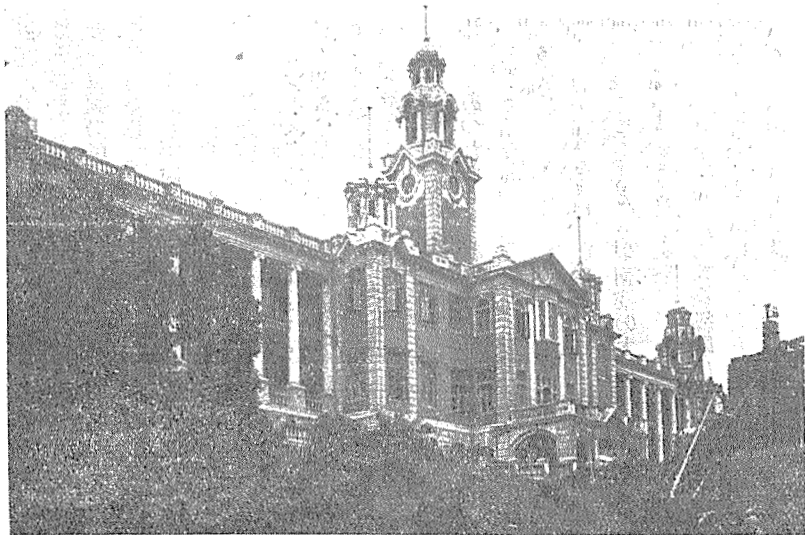
モレービアン派の人人との親交は彼が歸國の後も尚ほ續けられた。ロンドンに歸つた時、モレービアン派の人 Bohler を知りになり、共に往復して信仰上の談話をなし、ジョン・ウェスレーは大いに教へらるるころがあつたやうである。

Bohler 氏は彼の間に答へるに常に警句の引用を以てした、殊に更生のことに關して熱心に説き、救は只神より與へらるるもので、それはキリストを通じて與へらるる。而かもキリストの死に對する悔ひてキリストを信する唯一條件は眞に悔ひてキリストを信することになりと説いた。彼は一日 Bohler と共に在つた時、自分の不信仰なのを自覺して、

眞に信仰を求むる心が動いてゐた云つてゐる。その時彼は

How can I preach to others who have not faith myself? 煩悶の語を發してゐる。以來彼が念頭に來るものは救を得る云ふことであつた。スパンゲンハーグの『内心の證を得る』(云ふことでも、Bohler の『救』云ふことでも、何れも彼が未だ經驗しなかつたことであつた。救がかくあるものは教へられるままに知つてはゐたが、それを眞に自分の内心の證據を得るまでに確實に實感體得してゐなかつた。

そして彼はこれを得んとして考へ苦しんだのである。或はオオの許にこれを尋ねた事もあつた。併しオオも亦同様の言を以て教ゆるのであつた。教へらるるその言葉は耳朶を斷わす離れない程であり、その言葉は一句一句記憶してゐる程であつたが、どこにもないのは彼が内心の救の確信であつた。右を向けばスパンゲンハーグが『内心の救』の大旗を掲げて迫り、左を向けば Bohler の『救の確信』の旗が進んで來る。而して正面は只暗黒に過ぎな



ホ ン コ ン 大 學 (岩崎教授書信より)

かつた。併し彼の心にはこの暗黒の彼方に必ず光明がある、多くの聖者達、さては Spangenberg にても Bohler に於ても、皆この暗黒の彼方の光明界に到着したのである云ふ希望が漸次湧いて來たのであつた。而して實に煩悶の夜の明くる時は來たのである。而かも煩悶の夜明け輝いた時降り續いた梅雨の後のやうな墮落腐敗してゐた英國の社會をまばゆきばかりに照つたのである。

何時もの如く朝五時云ふに起き例によりて新約聖書を開いて讀んでゐる中に『汝も亦彼の國を去る遠からず』とある句を讀んで、深く考へ、何かしら自分を引く物のあるやうに考へ、遠からずの中に『彼の國』に近づくことが出来るかも知れない云ふやうな感じを得たのである。とうとうその日の午後彼はボー

會堂に出席して禮拜したが、その時頌詠して讀まれたところは詩篇の第三百一十一篇の一節、即ち『ああエホバよわれふかき淵より汝をよべり、主よねがはくば我が聲をきき汝のみみを、わがねがひのこゑにかたぶけたまへ』であつた。この句を聞きつつ彼の心は救を求めて切なるものがあつたが、靜かに會堂を去つてわが家に歸つた。その夜はアルダースゲート街に於て開かれたモレービアン派の小集會に出席した。そこで彼は一人の信者がルイテルのロマ書を讀むのを聞いた。而して茲に彼の同心の經驗は起つたのである。勿論突發的に茲にこの時に起きたのではないことは前述の通りであつて、それが動機となつて、ここに同心の最頂點に達したものである。一體宗教的同心の如きは多く二十歳前後に起り、それ以後は漸次減退するものであることは宗教心理學の調査等によつて知るのであるが、古來大宗教家となつた人人に就いて見るにその多くは二十歳以後二十四五歳、三十六七歳の頃に起つてゐるやうである。彼ジョン・ウェスレーの如きもこの同心の經驗を得たのは實に三十五歳の時であつた。彼はこの時の記憶を日誌に誌して次の如くに述べてゐる。

『この夜私は進まぬながらもアルダースゲート街の集會に出席した。時は九時十五分前であつた。一人の信者はルイテルのロマ書の序文を讀んでゐた。即ちキリストを信するため文を讀んでゐた。即ちキリストを信するに神が人の心に起す變化に就て記述した箇所であつた。これを聞いて私は妙に私の心が温かになつたやうに感じた。私はキリストを信じ得たを感じた。救は只キリストに在り信じ得た。そしてキリストは私のやうな者の罪

をすつかり取り去つて呉れた確信を得た。信
じるこゝが出来た。キリストは確實に私の如
き者を救ふて、罪と死の則から解放して呉れ
た。信じて得た、……併しやがて私の心に悪魔
の私語くを感じた。「そんなこゝは信仰では
ない、信仰だつたら喜悅がある筈だ、何所に
喜悅があるか?」……」

これ以來彼は常にキリストと共に在るこの確
信を以て生活するやうになつた。併し茲に不
思議なこゝは弟のチャールスも亦同じやうに
經驗をこの頃を得たこゝである。兄に先だつ
三日前既に神の赦しを得たこの強き信念を得
てゐた。また友人ホイットフィールドも相前
後してこの同心の經驗を得、共に今後は神の
ため、身も魂も捧げて働かんこの熱心に燃
てゐたのである。

實にジョン・ウェスレーの同心は獨り彼一個
のそれではなく、英國民凡て否引いては世界
の民の同心の云ふべきであつた。Leckyが
その著“England in the 18 century”に云
つてゐる次の言も實に至言の云ふべきである
It is, however, scarcely an exaggeration
to say that the scene which took place
at the humble meeting in Aldersgate st.
forms an epoch in English History. The
conviction which then flashed upon one
of the most powerful and most active
intellects in England is the true source
of English Methodism.

かくて彼ら三人は一度モレーヒアン派の本國
を訪ねんと志し、他の數人の友人と共にドイ
ツに渡り親しくその實狀を調査する。共にま
すます信仰に燃て歸國し、いよいよ眞劍な

八 運動開始

る宗教運動を開始するこゝになつたのである

信仰に燃てたジョン・ウェスレー及び他の數人
が、モレーヒアン派の本國を訪ふて一層の熱
度を増し歸國の後、いよいよ第二次メソヂス
ト運動を開始したのである。茲に不思議なこ
ゝはオックス・フォードに於ける神聖クラブの
組織さるるに於ても、弟チャールスは兄の活
動に對する準備者たる役をなしたが、この度
の運動に於ても亦チャールスがその準備役を
務めたのである。米國傳道を中途にして意見
の衝突から歸國したチャールスは、大都會に
於ける貧民救濟、或は獄舎に在る囚人保護等
の救濟事業を企て着着その歩を進めて居つた
ジョン・ウェスレーも亦この運動に加はり兄弟
協力してこの事業に成功を收めんとし、先づ
ロンドンに於ける監督の承認を得んとして、
監督 Gibson 博士を訪ねて、事業の現狀を告
げ、その公認を得んしたが出来なかつた。
止むなく公認を経ずしてこの事業を續けなけ
ればならなかつたのであるが、活動する上に、
さればの不便であつたか察するこゝが出来
る。且つまた何の理由であつたか、後にグラ
ウセスターの監督になつたウォーバードン氏
は彼らの運動に反感を抱いて居つた。従つて
彼らが茲に運動を開始せんとするに當つて一
つ其の勢を挫かれたこゝであつた。浪路靜か
に出帆するこゝは出来なかつた。併し彼らは
そのために少しも熱心勢力を失はなかつた
一層力は加はり、熱心は増したのである。
彼らの運動に公認を與へず、また彼らに對し
て反感を抱いてゐたことは云へ、それらの人人
は何ら積極的にその運動を妨害するやうなこ

ゝはしなかつた、けれども彼らに對する反對
は漸次現はれ、進んでこれを妨害し、迫害す
るものが現はれて來た。英國國教會は何れも
彼の反對に立つて、彼を教壇に立てるこゝを
禁じたのである。併し彼は少しもこれを意こ
せず、自分が按手禮を受け説教するの權利を
持つてゐるので、ロンドン及び各地方に於て
『信仰により義せらるる』と云ふ純福音主義の
教義を大膽に説いて歩いた。彼の熱心は彼の
純福音主義の教義は、可成り當時の人人の
心を動かしたものであつた。けれども國教會
以外の諸教會はこれまで彼に教壇を許して
たが、漸次その純福音主義宣傳によつて教會
内に動搖を起すこゝを怖れ、遂にその教會堂
を貸すこゝもまた彼が教會内に入るこゝさへ
も拒絶するやうになつた。茲に彼は他の方法
を講ずるの止むなきに至つたのであるが、同
じ頃に弟チャールスも亦ロンドン教會に於て
教壇に立つて拒まれ、近く米國より歸れるホ
イットフィールド亦同様の冷遇を受けるやうに
なつた。併し彼らはかく教會からの冷遇を受
けつつも、彼らの事業は死を以て果すべき神
のための事業であるこゝを強く信じて動かさ
ず、神の榮光のために専心であつた。教會の冷遇、
反對に對する反抗心や、或はかく冷遇さるる
不名譽に對し、一大事業をなしてこれを挽回
せんとするやうな野心が彼らを支持したので
はない。彼らは信仰に燃てゐたのである。

彼らの信念は一朝一夕にして起されたもので
はない。一席の説教に感激して得たるふらふ
らな信仰ではない。敬虔なる父母の教養と訓
練の上に、三十餘年間苦しみ悶て、その
結果に得たる大徹徹底的の強固なる信仰であ

る。そこに熱もあり、力もあつた。彼らはい
く各教會から教壇に立つこゝを拒まれ、何ら
か新たな方法によつて活動を續げんこ考へ
つつあつたが、かかる間に年は改まつて一七
三九年の正月を迎へるこゝになつた。凡てが
改まる正月元旦、彼らはその吉日を撰んで
Peter Lane に集會を開き、ホイットフィールド、
チャールス及びインガムその他の同志約六十
餘名と共に愛餐式を行ひ、熱心なる祈りの中
に新年を迎へ、新しき年に於て新しく大運動
を開始せんこゝを決して、神の祝福を祈つた
のである。

一方英國社會の狀態は、一面に於ては甚だし
き墮落腐敗の有様であつたが、他面に於ては
靜かに奥深く流るる宗教的氣分は漸次頭をも
たけつつあつた。ピューリタン一派の信仰は
依然として存し、モレーヒアン派の信仰も漸
次英國に擴まつて來た、その他 Pietism (敬虔
派)の信仰は英國國教會の或るものと結んで
福音主義の運動をなさんとする氣運に向つて
ゐた殊に St. Giles Church の Smiths 博
士や Homeck 博士の如きは、進んで福音主義
宣傳に力を盡さんとしてゐた人人である。ま
たウエールス地方に於ては、Howel Harris が
熱心なる信仰に燃て、當時の不道德や墮落
の狀態を批難攻撃しつつ、福音の宣傳に熱中
してゐた。

九 ホイットフィールド

ウェスレー兄弟らのメソヂスト運動を述ぶる
に方つて、見過ごすこゝの出来な一人はホ
イットフィールドである。勿論多くの運動に盡
した人はあるが茲にホイットフィールドを簡
單に紹介するこゝにする。彼は既に神聖クラ

ブの會員であつて、ウエスレー兄弟と親交を保ちその運動を助けてゐた。

一七一四年十二月十六日グロセスター州に生れ、父方の祖父及曾祖父は共に國教會の教職に就いた人であつた。父は彼が僅か二歳の時にこの世を去つた。母はそのため七人の子を抱いて旅舎の女主人として子供の養育に盡したのである。兄弟は六男一女、彼はその末子であつた。彼の幼時のこゝは彼が一七四〇年に出した記録によりて見るこゝが出来るが、少年の頃は甚だ亂暴で、時には不徳な悪戯をして母を困らせたやうである。十二歳の頃クラセスターの語學校に入つたが、三年の後退校し、母の旅舎の書記をしてゐた。併しまた再び學校が戀しくなつて、學校に歸るこゝになつた。この頃彼に宗教的感情が起き、仲仲強烈であつた。彼が將來教職に就かんことを決心したのもこの頃のこゝであつた。そこで一七三二年神學を修める目的を以てオックスフォードに學ぶこゝになり、こゝに於てウエスレー兄弟を知り、神聖クラブの會員として嚴格なる規則の下に宗教生活をなしたのである。ウエスレー兄弟が相前後して同心の經驗を得たが、彼も亦その經驗を経た、而かもこれら三者の中で一番早く同心の經驗をなした。一七三六年六月按手禮を受け、かつオックスフォード大學からバチエラーの稱號を得た。一七三八年ウエスレーが米國を去るに方つて、その後任として招かれ米國に渡り、雄辯を以て大いに傳道したが數ヶ月にして歸つた。歸國後間もなく長老の按手禮を受けた。彼は熱心なるが上に雄辯家であつたのでよく聽衆を感動せしめ得たが、ロンドンの各教會は彼を

狂信家として顧みなかつたので、止むなくモレービアン派やその他の集會に出て福音の宣傳をなすつたが、たまたま一七三九年正月ウエスレー一派の運動開始に當りこれに加はつたのである。その年二月彼はプリストルに赴いたが、各教會は彼れに講壇を貸さなかつたため、野外に立つてキングスワードヒルの坑夫らに對し、路傍説教を以て傳道を開始するこゝにした。彼の雄辯と熱心とは忽ち大いなる結果をもたらした。一ヶ月の後には二萬人の聽衆が集まつた云ふ。彼がこの地に基礎附けたキングスワードの學校は、メソヂスト運動發展上に大いなる力になつたものである。彼はかくして各地を巡回して、到る所に雄辯と熱心とを以て覺醒運動をなしたのであるが、これに對する反對も烈しく加つて來た。彼が、教會の牧師は『盲目なる手引者である』と批難した云ふこゝから、大いなる怒りを買ひ、一七三九年の中に彼に對する反對の文書が、四十九種も現はれた云ふこゝである。

米國に渡るこゝ七回、到る所に信仰の覺醒を促し、殊にボストンに於ては未曾有のリアバルを起した云はれる。

彼の神學としては別に見るべきものもないが彼はカルピンの豫定説の主張者であつた。米國に在つても常にカルピン派の人人と交り、一層強くこれを信するやうになつた。然しこのためウエスレーとの間に爭論を起し、一時は絶交をさへしたが、高潔なる人格を有する彼は説のために争ふことも人としての親交を絶つは良からずして再び舊の親密に復し、親友として堅き交りを續けたのである。

彼の雄辯は有名なもので、ロンドンに於ては八萬人の聽衆が集り、彼の説教を聞かんとて附近の郊外や貧民窟からは全家總出で出かけたためテムズ河の渡守はこの人人を全部渡河せしめるこゝが出来なかつたこのこゝである。彼の聲量は優に二萬人の聽衆が明瞭にその説教を聞き得た程であつた。その一聲、一舉手よく人を感動せしめ得た云ふ。フランクリンは一度この人の説教を聞かんとて出て行つたが、一度の説教にいたく感動し、初めは集金に來ても壹錢も出さまい考へであつたがだん／＼話を聞くにつれ、銅貨錢をけを出さうと考へ、また更に聞き續けてゐる中に銀貨も出さうと決心し、説教の了つた時にはあらん限り財布の金全部を與へた程に感激された云ふこゝである。以て彼の雄辯が知られる。彼は死の前日マサチュセツト州に於て説教する筈であつたが、病氣であつたので友人らはしきりに中止するやうにすすめ、自分も中止する考へであつたが、聽衆がだんだん集まるのを見て、強ひて説教をなし、満場の聽衆を酔はした云ふ。かくて説教より歸つて靜かに床に就かんしたが、感動された人は交交來つて、感語を乞ふので、苦しみも勞れも忘れてそれらの人人に感語をなし、燭火のつく頃にまで及んだ。それを了つて眠りに就いたが、病と疲勞のため再び起つ能はず、その翌朝一七七〇年九月三十日靜かに眠るが如くこの世を去つたのである。

一〇 活 動

ホイットフィールドはキングスワードを中心として、大雄辯を振つて野外説教に大成功を収め、ウエスレー兄弟はロンドンに在つて、着

成功を収めつつあつたが、ホイットフィールドは米國に渡らんことを思ひ立つたので、ロンドンからウエスレーを招いてその後を主任せんとした。最初ウエスレーはロンドンに於て活動せんを欲し、且つ弟チャールズがロンドンを去るに反對の意見であつたので、ホイットフィールドの招きに應じなかつたが、種考へた末、ロンドンを去つてプリストルに行くこゝに利あるを信じ、遂に弟もこれに同意し、いよいよプリストルに行くこゝに決したのである。

彼がプリストルに來たこゝは、種種の意味で彼が活動の一轉機であると思はれる。彼は他に方法もなかつたので、ホイットフィールドに倣つて野外説教を以て福音宣傳の方法とした當時に野外に於て説教するこゝは、秩序を亂す行爲であるとして行はれなかつたのであつて、それを彼が好んで爲すやうになつたこゝは、他に方法を見出し得なかつたにもよるが、福音宣傳のためには傳統を破つても、尙ほ神のため忠誠を盡すこゝであるとの強き信念によつたものである。彼はこのこゝを記して、『私はこれまで儀禮とか規則等に關しては餘りにかたくなであつたので、人の魂を救ふ教でも教會堂で爲されなければ却つて罪惡であるを考へて居つた。従つて或日曜日にホイットフィールド氏が私に模範として見せて呉れた不思議な傳道法(野外説教)には、最初は容易に従ふこゝが出来なかつた』と云つてゐる。併し彼は今迄傳統的形式にさらはれてゐたそのさらはれを脱して、人の魂を救ふこゝは形式や儀禮ではなく、その福音に在るこの信念に立ち得たのである。而してその強き信

仰ぎ熱心さから爲された野外説教は、必然的に大いなる効果を挙げ得たのである。

彼が説く所は新約聖書の救の宗教であつて、主として一般社會からは野蠻扱ひにされてゐる中流以下の人人の救靈を目的とした。而して彼自らが煩悶の中に初めて神の愛を知つた時の經驗を出発點として、信仰によつて神の救は得らるるこの單純なる福音を説いたのである。併し彼にはホイットフィールドの雄辯はなかつた。ホ氏の雄辯はなかつたが人の魂に訴へて行く點に於ては彼れに優つてゐた。

ジョン・ネルソン云ふヨークシャーの人がこの兩者を對比して次のやうに云つてゐる『ホイットフィールドは立派な樂手のやうに思はれた。彼の説教は音楽を聞くやうに極めて氣持ちよく聞くことが出来た。そして私は彼が好きであつた。……併し不幸にして私は彼の云ふ所を了解することが出来なかつた。私はジョン・ウエスレーが来て初めてムーアフィールドにその説教を聞くまではとうき巢から出された迷ひ鳥のやうであつた。』、而して尙ほこの人はジョン・ウエスレーが如何に人の魂に喰ひ入る説教を爲したかに就て『彼は壇上に立つや先づ頭髪をなでて顔を私の立つてゐる方に向けた。私は彼が私に注目してゐるを考へた。そして私は彼の説教を聞かない前から、彼の畏ろしい態度が私に注目してゐるを思つたので、私の心臓は時計のふんぎうのやうに打ち振り始めた。彼が一度口を開いて教を説くや、彼の説教は初めから終りまで私に向つて爲してゐる様に思はれた。彼が説教を終らんとして彼は叫んで云つた――横しまの人よその道を捨てよ。不義の人よ、

その不義を捨てよ。而して救主なる主に、我の神に歸られよ。神はあはれみ深く、七十を七十倍する程のあふるるばかりの恵みと救を與へ玉ふ――』。死に於て私は起つて、若しそれが眞實ならば私は今、今日神に立ち歸ります、云つたのである』云つてゐる。

彼の活動は獨りブリストルに限つたものではない。ロンドン、ニューカッスル等はその主なる活動の場所であつてこの三地は彼が活動の三大中心地であつた。

彼がこの活動の間の生活は『狐は穴あり空の鳥は巢あり、されど人の子は枕する所なし』云つたイエスのやうなことはなかつたにしても、可成り激烈な多忙の生活であつた。彼は毎朝四時に必ず起き出て、或時の如きは五時から説教をなしたところさへある。常に各地を旅し、寸時も閑散の時なき生活であつた。

友人の宅或は旅舎に滞在する場合には、その間に讀書し、又は小冊子類の原稿を草して一分時も空に過すことがなかつた。殊に彼はきちんとしたこの好きにな人であつたので、何事によらずプログラムに従つて行動し、これに反するやうなことを、



ハイルベルグの大學の一部

又はこれを變更するやうなことは殆どなかつた。何時如何なる所に於ても心の靜平を亂すやうなことをなく、何時も靜思の時を得ることが出来た。

活動の間に彼の旅行せることは陸路二十五萬マイルの旅程に達し、聖チヨールチ海峡を渡ることも殆ど五十回に及び、一七五〇年の六月中には、一日の中に二十時間を馬上に過し、九十里の旅程を旅した云ふことである。冬の日雪積る中を馬を下りて馬を引いて旅することもあつた。彼が説教するところ四萬二千四百回これを一週間平均にすれば實に一週十五回、一日平均二回の説教を爲したわけである。これは彼がチヨルヂヤから歸つてから、死に至るまでの間の計算である。故にそれ以前の分を加へたならば更に多くなるのである。尙ほ Abel Stevens 博士はホイットフィールドのことも計算してゐる

故、茲に兩者を比較することが出来る。ホイットフィールドはその傳道の三十四年の生涯に於て、説教するところ一萬八千回、一週約十回に及んでゐるのである。

彼らの活動はかくも熱烈なものであつて、その熱辯に引きつけられ道を求むるもの、改心するもの非常に多くあつた、併し彼らはこれらの求道者、改心者を教養すべき場所と設備を持つてゐなかつた。幸ひ彼らはモレービアン派の行動を共にしてゐたので、これら求道者改心者をモレービアン派に協同して、フエターレーンに組織した協會に會員として入れその教養の機關に當つたのである。併し一七三九年の終りに於て、モレービアン派に相別るに至つた。それはドイツから新たに來たモレービアン派の教師が、無道徳主義と靜寂主義を傳へたので、種種注意し改めさせやうとしたが同教師はこれを改めず、彼らの言を聞かなかつたので彼らは斷然モレービアン派を分離して獨立行動に出でんことを決心し、前に獨立の一協會を組織する事となつたのである。モレービアン派の分離に當つて、チャールスはモレービアン派の方に傾いてゐたので兄の所置に不満を抱き、一時兄弟不和を來したのであるが、最も親しき兄弟が不和の状態に長く續くべきではなかつた。間もなくチャールスは兄の意見の正しきを認め相和するやうになり、兄弟相協力して活動を續けたのである。

彼らの活動が著しくなるにつれ、それだけ反對と迫害も増して來た、實に大木なる丈け風の當りは強いのである。其國教會の教師らは勿論、政府の官吏等の迫害は可成り烈しく

なり、それらの反對攻撃の著述もその數を増して現はれた。また時には暴民の迫害もしばしば加へられた。併し彼らの信仰も勇氣もこれに倍して増し、ますます傳道の手は擴げられ、求道者改心者は日一日と増して來た。その結果一七三九年プリストルに小さい年も一つの教會が建設されることになつた。しかも貧しい會員が一週一ペンスづつの献金によつて建てられたものである。ウエスレーは全額の集まるまで毎週會員の宅を集合に歩き貧しくして出金し得ない者のためには、自分の財布からこれを支拂ひ、漸くこの一教會は建てられたのである。

この集金の經驗から組合の組織が出来るやうになつた。即ち十二人を以て一組とし、その一人を組長とし組中の會員の集金をしたのであるが、後には組員を訪問して相助け、相勵まし、教會一致聖徒の交際をはかつたのである。而してウエスレーは一年四回各會員を監督するため各組を巡回した。これが四季會の起りである。併し協會が多くなり、一人で巡回し得ざるに至り、前に『總則』を作つてこれを配布し、次いで一七四四年教師、信徒をロンドンに會し、如何にして神の事業を進行すべきかに就て協議を爲した。これが第一回メソヂスト教會の教會會議であつて、會するものはウエスレー兄弟、四人の教師、四人の信徒、説教者であつた。この集會に於てメソヂスト教會の主義、傳道方法に關する規則を立て、國教會に對する態度をも定めた。また巡回傳道法を定め、一年又は二年毎にその任地を交代せしめる方法を定めた。

を行ふことが出来ないものも考へてゐたが、Lord King の書を読んでから、使徒傳承説は虚構の説であることを知り、同時に自分が聖書に適つた監督であるの確信を得た。併し彼は監督として按手禮を施す事をしなかつた。只説教者を任命することが、按手禮と同じのものであると信じてゐた。然るにたまたまロンドンの監督が、米國に在るメソヂストの一教師が按手禮を受けんことを方に、同監督はこれを卻けたので、これは神が自分に按手禮を授くべき途を開いて呉れたものだから、この教師に按手禮を授け、それ以來多くの教師に按手禮を授け、且つ聖典執行の權を附與したのである。

英國國教會に對しては、自ら反對迫害を受けながら、少しも反抗の態度に出でず、自分の信徒に向つても常に國教會に留まる様すめた程であつた。併し按手禮を施したことは國教會に反抗を示すものであると見ない譯でもなかつた。弟チャールズは兄が按手禮を施したと聞かや、それは國教會に反抗することであるが故に中止されたこと云つて來たのであつた。しかし兄ウエスレーはこれに答へて、按手禮を施したのは決して國教會に反對を意味したのではない。只一人でも多く靈の救はるるを切望する餘りに教師に按手禮を施す諸特權を與へたまでであること云つてゐる。またその以前英國國教會對の問題に就ては種種の議論があつて、或者は分離を主張し、或者はこれに留まることを主張して容易に決しなかつたが、彼は一七四五年に同勞者に書を送つて、その良心の許す限りに於て、英國教會と共同すべきことをすすめた。但しそれがため信仰によつて救を得ること、私人の家または野外に於

ての説教、普通平信徒の説教することを禁ずるやうのことはなきやう注意した。彼は飽くまで三十九ヶ條の信條に則り、國教會の會員たるを信じたのである。

彼は諸所を旅行して傳道に日を過したにも拘らず、彼の著述は可成り多くある。譯書も多々ある。その種類二百に上ること云ふ。最も有名なものは日誌、説教集、新約書註解等である。また一冊一ペンスで五十冊で完備してゐる宗教叢書をも出版した。この種の叢書出版は實に彼を以てその先驅者云ふべきである。

一一 結 果

如何に熱心があり、信仰があるとするも、向ふ見ずの所謂「狂信」であつたならば、只一人あせるだけで時代を動かすやうな活動も効果を擧げることは出来ない。ウエスレーらがかかる當時の人人が嘲笑して呼んだやうな狂信家であつたならば、かの大運動も大なる結果を得ることは到底出来なかつたのである。彼らには狂信以上、よく時勢を達觀するの眼力があつた。當時の英國が腐敗墮落の極點に達し、救ふべからざるが如き状態に在つたが、而かも既に墮落の頂點に達し、或一部に於ては何らかの新しい轉機を望みつつあつた。

彼らの運動はこの機會に乗じたのである。英國教會の沈滞、固定した信仰、それに活を入れ生氣あらしめたものである。彼らの單純なる福音、野外の説教何れも當時の民心を引いて一新轉換を與ふるに足りたのである。

また一方ウエスレーの時代に一勢力を有せる自然神學一派の思想も漸次衰頽し來り、ヒュームの根本的なる批評に逢ひ、遂に其立場を維持し得ざるに至り、かつウエスレーらの運動の結果宗教的熱情が勢力を得るに至つて、いよいよその勢力を失ふに至つた。これと反

對にウエスレーの運動は勢を得たのである。ウエスレーは一七九一年八十八歳の高齡にて死んだ。その生涯は實に十八世紀全汎に亘つてゐる。彼の晩年約十年はその活動の著しき時であつた。その活動の結果彼の死せる時、メソヂストに屬する説教者五百四十一人、信徒の數十三萬四千五百四十九人の多きに上つてゐた。

彼の神學に就ては茲にはよくこゝにするが、ホイットフィールドがカルピンの豫定説のために、兩人の間に不和を來したことは前述の通りであるが、ホイットフィールドのカルピン説に對しウエスレーのこゝろは、アルミニウス派の信仰であつて。豫定は豫知に基くに非ざるカルピン派に反し、豫定は豫知して豫定されるものとするのであり、また救に就てもカルピン派に於ては、撰ばれたるもののみ救はるること云ふに反し、救は萬人の得るものであることなす點に於て兩者は相違してゐる。この兩派はその當時激論を闘はし、遂に一八一八年のドルドの宗教會議になつたのであるが、この會議に於てカルピン派が容れられ、その公布されたるドルド信條はカルピン説に基けるものである。

ウエスレー没後のメソヂスト教會の發達は、すこぶる順調の發達を遂げ、彼の死後五十年を出でずして、今日メソヂスト教會の盛大な遂げてゐるのである。その派は現在數箇の分派に分れてはゐるが、プロテスタント教派に於ける一大勢力として存するものも、實に僅か百五十年前この世に在りしウエスレー兄弟の目覺しき運動の結果である。

この運動の直接の結果として英國の社會が如何なる變化を來したかをここに述ぶる筈であると思ふが、これに就ては他日述ぶることとする。——完

第二學期授業開始

本學各部各學年とも去月十一日を以て第二學期授業を開始した。

第二回供託金納付

大學令第七條に依る本學供託金第二回分金拾萬圓也を去月初旬無事政府當局に納付した。

専門部學生補缺入學許可

第二學期授業開始に當り、本學専門部各科學生の補缺入學を許可することとし、去月初旬福島學舎に於てそれぞれ入學試験の結果左の通り入學を許可した。

| | |
|-----------|-----------|
| 専門部本科第一學年 | 三五〇人 |
| 科 別 | 法律學科 一五二人 |
| | 商業學科 一〇四人 |
| | 經濟學科 九四人 |
| 専門部豫科第一學年 | 二一〇人 |
| 科 別 | 法律豫科 六六人 |
| | 商業豫科 八八人 |
| | 經濟豫科 五六人 |

千里山學舎第二學期始業式

去月十一日午前十時から千里山學舎に於て、第二學期始業式を舉行した。山岡總理事、柿崎、宮島兩專務理事その他各理事、監事、教職員等多數參列の下に、先づ木下幹事開式を宣し、山岡總理事の告辭(別項所載)、宮島專務理事の學事報告(同)、新歸朝沖中講師のドイッ最近の實狀に關する講話(同)等があり、

學歌合唱裡に閉式した。閉式後參列者は何れも一堂に會し、晝食の卓を共にし午後一時散會した。

宮島專務理事の報告

卑近な例で言へば、大學の暑中休暇はとうき芝居の幕合のやうなものである。即ち學生諸君を觀客とするに、吾等は役者さか舞臺係に相當するものであるが、芝居の幕合が役者や舞臺係に取つて最も忙しい時であるやうに、大學の暑中休暇は吾等に取つて又最も忙しい時期である。次の舞臺面に現はす演劇の準備が總て幕合の間に樂屋に於て爲されるに同様に來るべき新學期に關する凡ゆる準備を、吾等は暑中休暇中にして置かなければならぬのである。

尤も熱心な觀劇家は幕合を雖も決してボンヤリとして、爲すこともなく徒らに次の幕の開かれるのを待つてゐるのでなく、この間に前幕の批評をしたり、次の幕に何がデヴェロブされるかを考へるなど相當に忙しいものであるが、これは學生諸君に就いても同様に言ひ得ることである。私は本學の學生諸君が極めて熱心な觀劇家として、二ヶ月に亘る幕合を随分多忙に過ごされたこと信する。

それは兎に角、芝居の幕合にはよく餘興がある。日本では餘り見ないが、西洋ではこの劇場でも必ず幕合に演ぜられる所謂インターリュードなるものがある。とうき本學も今度の暑中休暇中にこの餘興即ちインターリ

ードを演じた。而も非常の喝采を博した、即ち大成功を収めることが出來たのである。これがここに第一に報告せんとする夏期語學講習會である。

本月發行の千里山學報第十二號には、この夏期語學講習會に關する記事が満載せられてある筈だから、茲に詳しく繰返す煩を避けるが、少くも次の二つのことだけは言つて置きたい。その第一は、講習期間は極く短時日であつたが、各種の研究特に語學の研究に於て最も必要である勢力の集中云ふことが遺憾なく行はれて、その効果が決して鮮少でなかつたこと云ふことである。即ち講師も聽講者も極めて熱心眞面目であつたのは勿論、この熱心眞面目を以て約二十日間全勢力を語學の研究に集中したことが、それだけの効果を示したかは、本學學生諸君の中にも講習會に出席した人が尠からずあるやうであるから、私が述べるまでもなくそれぞれ肯か

れることであらうと思ふ。次は本學が今度の講習會で初めて採用した男女共學制である。このことも前に言つた千里山學報誌上で詳しく述べられてゐることであり、今更その可否を兎や角言ふやうな時代でもないから、茲に詳論すること止めるが、兎に角研學上多大の効果あることは今回の講習會が有力に實證してゐるのである。これに依つて近く本學が大學教育そのものの上に於ても採用せんとするコエデュケーションの實現に關して、力強い確信を與へられたことを喜ぶものである。

第二に報告しなければならぬのは、岩崎教授の渡歐であるが、同教授の渡歐に關して少く

とも二つの重大な意義を見出すことが出来ると思ふ。一つは本學のモットーとする「學の實化」云ふ點である。既に新聞紙に依つてしばしば報道されてゐる通り、同教授は今回の渡歐に際し、時恰もジュネーブで開催せられる國際勞働會議に參與して、同教授日頃の研究範圍である社會政策並に國際勞働立法に關する蘊蓄を實際に應用することになつてゐるが、これ蓋し「學の實化」の目的に適應に合致するものであると思ふ。

その二はやはり本學のモットーの一つである大學の國際化云ふ點である。曩に本學水谷教授は北米各大學を歴訪し、多大の効果を齎して過般歸朝したのであるが、今回本學が岩崎教授を歐洲に派遣したのも、その第一の目的はこの點にあるのである。同教授が必ずや歐大陸の各國を遍歴して、各著名大學を訪ひ、多數の碩學に接し、彼の長を齎して本學發展の資に供すること共に、又彼我の連絡相和に力を致し、右の使命を完うされるであらうことを、私は信じ且つ期待するものである。

第三に報告すべきは本學留學生沖中恒幸氏が今回無事歸朝されたことである。同氏は永く海外に在つて、即ち米國コロムビア大學に約四年、獨國ベルリン大學に約一ヶ年在學して、専ら經濟學を研究し漸く歸朝せられたのであるが、幸ひ今日この式場に臨まれ、親しく目撃して來たドイッ最近の實狀に就て一場の講演を爲される筈である。

第四は新講師の招聘である。大學に立派な教授や講師が有るか否かは、それだけで直ちにその大學の價值如何を決するものである云ふも決して過言でないであつて、この點に

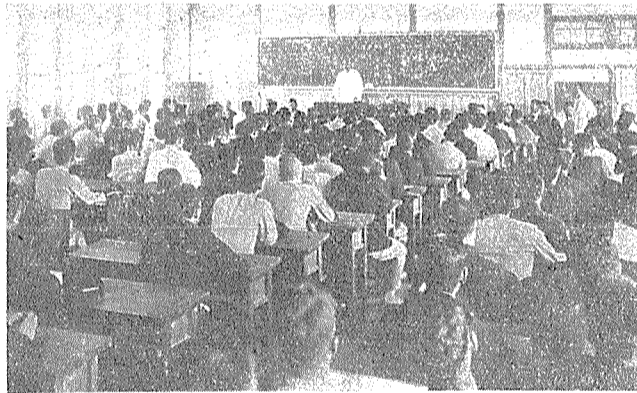
關しては本學の最も力を致すところである。即ち前に述べた沖中氏を初め、三田講師、武内講師その他新進の學者數氏を新たに招聘し、何れも本學期からそれぞれ學科を擔任せられることになつてゐる。

最後に只今總理事の告辭中にもあつたやうにかの空前の大出来事の結果、諸君の双肩にかつて來た責任の重大さは繰り返し申すまでもないことであるが、

最も惜しいのは學問の研究手段の極めて多くを失つたこと云ふことである。東京帝國大學の圖書館の焼失の如き、誠に遺憾の極みである

今回失つた圖書の數は應て回復される時があるであらうが、よし數は充たされても再び回復の出來ない貴重ものが極めて多かつたのであつて、この點は千載の恨事と言はなければならぬ。

今最後に報告したいのはこの圖書に關することである。幸にして本學の圖書も着着として充實しつつあると同時に、係員を督してその整理を忙がせつつあるが、既に本學舎圖書室に備付を了したのもかなりあり、尚ほ續續こちらへ運ばせることになつてゐるから、學生諸君が研學上遺憾なくこれを利用せられんことを切望する。



式業始期學二第るけに於に舍學山里千

本學擴張事業促進計畫

關東地方に於ける大震災の結果、勉學の方途を失つた多數の學生で續續本學に轉學を申込んで來る者があり、且つこの大事變に鑑み國家文教上より見て本學の使命の益重大なるものあるを認め、而もこの使命の遂行が今や最も急を要するに至つたので、長期計畫であつた本學の擴張事業を、この際一日も速かに實現することに決し、當局者一同専ら力をこれに傾注する

同時に、江湖各方面の援助を請ふべくそれぞれ依頼狀を發送しつつある。

罹災學生の轉學許可

過般の大震災の結果研究繼續の方途を失つた罹災地各大學の在學生に對し本學は直ちに學門を開いて一定の條件(前號第二十六頁參照)の下に特に轉學を許可することとした。

だが、續續轉學の申込あり、詮衡の上既に轉學を許可した者も多大の數に達してゐる。

教員囑任

今回新たに左記諸氏を本學教員として囑任した。

- 大學部講師 沖中恒幸
- 經濟書研究、經濟學史

- 取引所論 法學士 增山忠次
- 保險學 法學士 橋本重幸
- 社會學、外政研究 武内省三
- 大學豫科講師 三田直吉
- 佛語 專門部講師
- 保險學 法學士 橋本重幸
- 英語 沖中恒幸
- 獨語 武内省三
- 外國貿易 法學士 岸田幸雄

日曜自由講座新設

「學の實化」をモットーとする本學は、既に「學の實化」講演會或は夏期語學講習會等に依り、所謂ユニヴァーシティ・エクステンションの實を擧げつつあるが、今回更に左の如く日曜自由講座を新設して一般市民の爲め講堂を開放し、以て右の意味に於ける本學使命の推行により多く力を盡すこととした。

日時 毎月第一及第三日曜日午後一時より四時まで(但し八十分間づつの講義二回、中間の二十分間を休憩時間とす)

場所 第一日曜日 市外千里山學舎 第三日曜日 市内福島學舎

- 講師 本學教授講師にして凡そ次の如し
- 社會學、社會政策 岩崎 卯一
- 法學、海法 市村 富久
- 文學概論、近松研究 服部 嘉香
- 經濟學、經濟史 沖中 恒幸
- 哲學、社會學 武内 省三
- 哲學概論、心理學 中村 鄧次郎
- 英文學 村上 喜貞
- 社會問題 山村 喬
- 金融問題、取引所問題 增山 忠次

- 史學 小泉 幸治
- 宗教學、倫理學 櫻井 匡
- 交通問題 佐竹 三吾
- 經濟及政治問題 岸田 幸雄
- 法學概論 木下 孫一
- 經濟學、教育問題 宮島 綱男
- 海外事情 水谷 揆一
- 法律及政治問題 平松 憲夫

得 聽講 男女を問はず自由に聽講することを得

公示 講師、講義題目等は前以て本學内に掲示すること同時に大阪時事新報に掲載す

因に右第一回は本月七日(第一日曜日)午後一時から千里山學舎第九教室に於て左の如く開講せられたが、本號締切後につき次號に詳報することとする。

沖中留學生歡迎會

我國の現状と移民問題 平松 憲夫
近松の戀愛觀 服部 嘉香
沖中留學生の歸朝に祝意を表し、兼ねて震災當時滯京中であつて無事歸阪せられた山岡總理事の健康を祝するため、教職員有志の發起により九月十九日午後六時から、今橋ホテルで歡迎會を開いた。主賓を加へて來會者二十二名、日頃面晤の機會に乏しい各理事監事の多數が特に臨席せられたので、休憩室に於て既に先づ各方面の話題により意見の交換があり、當夜の盛況を思はせたが、やがて食堂が開かれ、デザート・コースに入るや、服部教授は發起人を代表して兩氏歡迎の趣旨を述べ、次いで沖中氏は明快に外遊所感を、山岡總理

事は詳細に震災目撃談を試みて一同に多大の盛興を興へた。記念撮影の後には、再び休憩室に自由の席を取つて、震災を中心として歓談に一同興味の盡くこころを知らず、近來珍らしい愉快な一夕を過したのであつた。當日の來會者は左の通りである。

山岡總理事、沖中留學生、宮島專務理事、柿崎專務理事、垂水理事、池尾理事、白川理事、佐竹理事、山口監事、中村教授、水谷教授、服部教授、賀來講師、早川講師、福田講師、樋口講師、山村講師、野村幹事、木下幹事、松崎書記、田川秘書、桂秘書

千里山學會第四回例会

本學千里山學會は、その第四回例会を去月二十九日午後三時から、阪急寶塚線會根停留所前志方邸内水谷教授寓に於て開催した。出席會員はそれぞれ廣大な庭園内の散策、娯樂機關の享樂、懇談等に時を費し、一同水谷教授の厚意に成る夕食を共にし、午後六時半愈開會、先づ辰巳同會幹事は新入會員沖中、武内、平松各講師を推薦紹介し、一同異議なく歓迎でこれを迎へ、次で櫻井同會幹事の會計報告があつて、當會の講演者服部教授の講演に入つた。同教授は「シェリの自由思想と神秘主義」を云ふ題目の下に、約一時間半に亘つて説くところあつたが、この世界的大詩人を紹介するに最も相應しい詩味豊かな同教授の口から洩れる一句一句は、聽講者をも亦知らず識らず詩境に導いて、秋の夜の更けるのも忘れしめた。右講演終つて後尚ほ會員各自の間にシェリに關する談話が交へられ、午後十時無事散會した。因に當日の出席者は左の通りである。

服部教授、沖中講師、武内講師、田邊講師、辰巳講師、中村教授、村上教授、山村講師、小泉教授、櫻井講師、宮島教授、水谷教授、平松講師、戸田、中村、森川各準會員

岩崎教授よりの來信

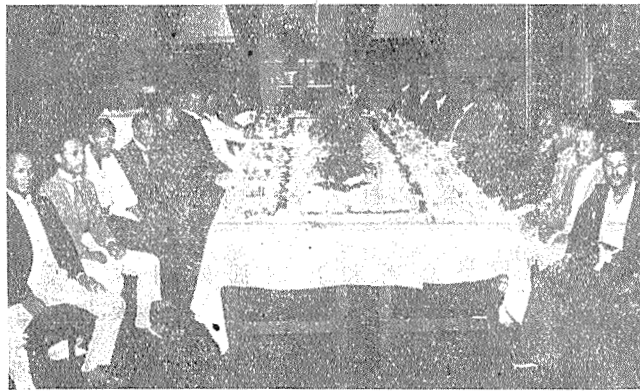
去月四日門司出帆の伏見丸で渡歐の途上に在る岩崎教授からは、山岡總理事、宮島專務理事或は學報局等に書を寄せて、その無事を報じつつあるが、今左にこれ等の書信の一二を掲載する。

山岡總理事並に宮島專務理事に宛てて

謹啓 本日門司から乗込みました。横濱に家を持つた船員達が、妻子の安否を案じ、結果が判明するまでは出帆の準備をしないを申出で、少し揉めましたけれども労働代表一行が重き任務を帯びて渡歐しつつあるのだから云ふことで有め、豫定通り四日正午出航しました。振り返る筑紫の連山は雨に煙つて、離郷の哀愁を喰るに相應しく思ひました。

東京震災の噂のみが船客の唇に上ります。折から在京中だった山岡先生の安否が本當に案ぜられます。

(九月四日晚一第一日、伏見丸にて)



今橋ホルテに於ける沖中留學生歓迎會

同上

謹啓 美しい朗かな日がつづきます。甲板には午睡をこる人人で満員です。私は午前中は某紙のために旅行記を執筆し午後は佛語の會話を同船の佛人三試みたり同船の人人の空氣焔を傾聴したり、鶴見祐輔氏の「三都物語」を讀んだりして暮します。晩は入浴して後、警視廳工場監督官鈴木學士「無門關」の研究をします。

ベルシヤ通商條約のため行きつつある縫田總領事は華府での知己ですが、毎日肥大なる體軀を安樂椅子にのせぐうぐう寝てゐます。男爵の夢か? 敬具

(九月十日上海と香港との中間で)

森下留學生よりの近信

北米ウイスコンシン大學在學中の本學留學生森下政一氏は相變らず無事研學中であるが、最近山岡總理事宛に寄せられた同氏の書信を左に掲載する。

拜啓 暑さの折から御變りもなく御座候や御伺申上候、小生相變らず頑健乍他事御放念被下度候
陳ば、關西大學發展のため引續き御活動の御様子毎千里山學報にて拜承深く感銘致

居候、學報の内容もいよいよ充實致し關西大學進展の跡を偲ぶべきもの多有多有之候は欣喜に不堪、小生等海外留學生に對する大いなる刺激に御座候
ウイスコンシン大學の過去一ケ年は誠に思出深き生活を味ひ得て、教授との親和、自然の秀麗共にこの地を離るるを難からしめ尚ほ一學期間滯留を決心し、目下もマディソンに留まり湖畔の夏を樂み居候
時分柄御自愛被遊御健勝の程遙かに奉祈上候、先は右暑中御伺申上度如斯御座候

佐竹理事の大阪市電氣局長就任

元大阪市電氣鐵道部長、本學理事佐竹三吾博士は本月一日附を以て、新設大阪市電氣局長に補せられ就任した。

第二回本學「日曜自由講座」開催豫告

今回本學に「日曜自由講座」が新設せられたこと並にその第一回が既に本月七日午後一時から本學千里山學舎に於て開催せられたことは別項所報の通りであるが、更にその第二回を來る二十一日(第三日曜日)午後一時から四時まで本學福島學舎第一教室に於て左の如く開催することになつてゐる。

- 一、交通問題に就て
本學理事 三竹 三吾
法學博士
- 一、證券取引と金融關係に就て
本學講師 増山 忠治

聽講者は男女を問はず又聽講料を要しない。

大阪府中津警察署長 日向幸藏氏

明治四十二年法律學科出身

氏は大阪の産、年二十二歳にして本學に入り明治四十二年七月に専門部法律學科を卒業したのであるが、同年二月大阪府巡査を拜命するまでは可成り苦學の生活を送つたさうである。翌四十二年三月警官練習所を出るや、上京して警部となり、再び大阪に歸つて、傳法、今福、網島各署の署長を歴任し、本年二月警視に昇進して中津署長に轉じた。

齡未だ三十九歳警察官としてその昇進の速なること蓋し稀に見るところであらう。氏は夙に警察事務に趣味を有し従つて其の仕事に對する態度も亦獻身的で、眞面目であり、その人格に於いて



不十分であること云ふのが氏の考へで、氏によればもも警察權そのものが權力關係の基礎の上に立つてゐるものである以上、これを行ふに當つては警察官として相當の權威を保つことが必要であつて、氏はこの意味から常に部内の人人に對して親切丁寧を旨とすると同時に、他方警察官としての權威を失はざらんことを力説してゐる。未だ着任後日が浅いので、具體的の話は云ふ程のこともないものの

言葉であつたが、筆者は衛生に、風紀に、交通に、整頓せる市内より遙になすべきことの多い大都市接續町村の警察官に、氏の如き有爲の人物を得たることを、廣く社會の一員として喜ぶと同時に、氏が

校友の

も己を持する誠に謹直なる一面、人事の表裏を嘴み分けた理解と同情に富み、署内の推服するところとなつてゐる。近時『警察の民衆化』と云ふことがよく唱へられるが、これも唯徒らに警官と民衆とが馴れ馴れしくなること云ふことだけでは

ますますその才幹を發揮して警察官としての抱負を實現せられんことを希望に堪へない。家庭は夫人との間に四人の子女あり、嚴父、母堂共に健在で頗る圓滿である。趣味としては圍碁、撞球等多少嗜まねこともないが、職業そのものに深き趣味を有つてゐることにて娛樂的意味に於ける趣味は殆ど無きに近いことである。

(寫眞は日向幸藏氏の近照である)

校友彙報

府縣會議員當選者

過般の全國府縣會議員改選に際し、本學校友中左記諸氏は目出度く當選の榮を贏ち得た。因に前號掲載の大阪府會議員立候補者中、木下重次郎氏は全然立候補しなかつた由につきここに訂正して置く、

- 大阪府 推 多賀谷 陳氏
 - 同 三七法 内藤 正 剛氏
 - 同 三七法 深川 重 義氏
 - 同 三九法 鮎子多 正 雄氏
 - 同 二二法 小岸 安 昌氏
 - 兵庫縣 五 法 宮尾 伴 助氏
 - 和歌山縣 三 五 法 加藤 清 氏
 - 香川縣 一 一 法 白川 千代治 氏
 - 高知縣 三 一 法 鎌田 正 治 氏
- 以上は既に判明した方だけでありませんが、尙ほ右の外に掲載洩がありましたら、お氣づきの方から御一報を煩はたいと思ひます。

罹災地方在住校友安否

過般の大震災に際し、罹災地方在住の校友諸氏で幸無事であつた旨既に通知があつたのは左記諸氏である。

- 池田三之助氏(四商) 無事、當分麴町區内
- 幸町一丁目仁壽生命保險株式會社内
- 片山光太郎氏(二二法) 無事、當分東京府
- 下板橋稅務署内
- 富家逸郎太氏(九法) 當時たまたま來阪中
- であつたため幸ひ無事、住所從前通り
- 後藤武夫氏(三〇法) 無事、當分芝區高輪

泉岳寺内

新原新太郎氏(一一法) 負傷した由であるが生命に別條なく、郷里香川縣善通町片原町に於て靜養中

平野七郎氏(一一法) 無事、住所從前通り尚ほ同地方居住の諸氏、若くは當時たまたま同地方に在つた諸氏の安否につき、本人又は知己の方から通知して戴きたい。

正誤

前號第十一頁校友會報中、校友會門司支部の遊説隊歡迎會とあるのは、校友會福岡支部門司在住會員の遊説隊歡迎會とすべきものであり(門司支部なるものは未だ存在せず、同地在任の校友は悉く福岡支部の會員である)、同じく校友會福岡支部の遊説隊歡迎會とあるのは、校友會福岡支部福岡市在住會員の誤り、又右記事、校友榎園氏は立つて歡迎の辭云云とあるのは校友池田氏の誤りにつき何れも正誤して置く。——因に右誤謬につきわざわざ懇篤なる書を寄せて注意せられた校友會福岡支部代表者池田重吉氏の好意を感謝する。

校友動靜

- 古川忠實氏(三九法) 仙臺地方專賣局大迫出張所長に榮轉
- 長義道氏(四二商) 大阪市電氣局新設に付同局電車部運輸課庶務係長就任
- 松井謹一氏(四〇法) 同上運輸係長就任
- 今田光臣氏(三九法) 同上事故係長就任
- 佐々木靜吾氏(二九法) 領事兼任を命ぜらる

面

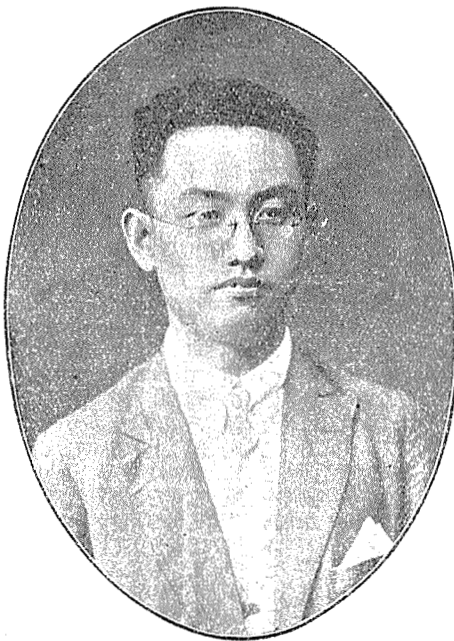
影

▲第五回國際勞働會議
資本家代表囑託

飯田清藏氏

大正二年度
商業學科出身

前號所報、第五回國際勞働會議に於ける我國資本家代表の通譯を委嘱せられた校友飯田清藏氏の面影をここに紹介する。



遂にその機を得るこゝが出来なかつたのを残念に思ふ。唯氏の出發に先きだつ一日郊外田邊の御宅を訪問した際、留守居中の夫人は荷造の指圖に忙しい中を愛想よく「宅でもほんまに名譽に思つて居ます。殊に今度の會議には、たまたま渡歐される岩崎教授も參與せられるさうであり、全く關西大學の獨り舞臺のやうだ云つて笑つたりしてゐます。此の間主人が上京しました時、山岡總理事にお目にかかつて、大變喜んでいたのでいたゞ申して居りました。學校へも一度御挨拶に上る云つて出たのでしたが……」

さ夫の榮ある門出を送る喜びを希望に其の顔は輝き渡つてゐた。

氏が長途の船路も今はもうあます所僅かである。筆者は尙この上ながらの恙なき航海を祈るに同時に、併せてこの度の門出が單なるジュネーヴへの門出のみでなく、更に大いなる氏自身の生涯への門出たることを希つてやまない。因に前掲の氏の略歴は、氏が船中から寄せられた手紙を要約したものであることを断つて置く。

(寫眞は飯田清藏氏の近照)

泉浩三郎氏(二二經) 大阪市電氣局電氣課修理掛在勤
淺香新太郎氏(一〇法) 堺稅務署在勤

校友住所移動

- 河村宣介(二〇商) 京都市下鴨宮河町九黒川方
- 清水新造(八法) 南區天王寺筆ヶ崎町五五五一
- 岡本一惠(二二法) 北區天滿橋筋六丁目一二五番地ノ五
- 佐賀 實(二〇經) 北區西野田玉川町三丁目一三五三
- 福田 莊平(三三法) 岡山縣久米郡福岡村宇大谷津山驛構内鐵道官舎
- 古川 忠實(三九法) 宮城縣大迫町專賣局官舎
- 山本 哲應(二〇法) 福岡縣小濱町
- 西 長市郎(二二商) 北區西野田今開町一丁目九八〇藤澤利八方
- 亥野 貞吉(二二經) 兵庫縣武庫郡西灘村上野字前田四五ノ六
- 目代 誠吉(二二法) 西區西長堀南通三丁目四
- 池田 重吉(三三法) 福岡市天神町四丁目五四
- 中山 徳太郎(二二法) 西成郡鷺洲町大仁新道三番地井上勇方
- 橋本 定憲(二二經) 三島郡千里山住宅二條通一番町
- 淺井 明(二二經) 南區難波元町五丁目五〇九帝國商業銀行大阪南支店
- 山口 正一(二二商) 北河内郡水室村字杉三四

校友改姓名

- (舊) 今野權右衛門
- (新) 今野勝久

校友逝去

大正十二年八月二十七日
大阪府東成郡墨江村口五七
深田 實氏
(大正十一年法科卒業)
右訃音に接し謹んで弔意を表す

寄書

府議戰雜吟 一二法 野村滋藏
言論 戰 鳴き競ふ聲かましし響虫
人身攻撃 響虫我聲よし高く鳴く
戸別訪問 叢叢叢聲を頼りに探しけり
廣告物美麗 虫賣りの行燈うるはし色付けて
陣笠澤山 山車をかづ若衆揃へり秋祭り
勸誘應諾 よく鳴く聞きて一匹實ひにけり
形勢不利 若衆の雨を憂へり秋祭り
形勢有利 鈴虫の聲のみ牙ねぬ秋の原
法廷雜吟 同
裁判所公平 望月の光あまねし秋の原
被告人無罪 夕立の晴れて涼しき梧桐かな

告

今般本學商業學科卒業生ニシテ左記條件ニ適合スル者ヲ朝鮮金融組合理事見習トシテ採用シタキ旨申越アリタルニ付希望者ハ至急本學教務課木下幹事マデ申出デラレタシ
一、卒業成績佳良ノ者タルコト
一、自筆履歷書ノ提出ヲ要ス
一、採用ノ上ハ確實ナル身元保證人二名ヲ要ス
一、初任月收約九拾圓 但シ内地在任者ニハ赴任旅費ヲ支給ス
一、約一ヶ年理事見習トシ後理事ニ昇進セシム
但シ採用人員ニ滿ツレバ拒絶セララルコトアルベキニ付豫メ諒知セラレタシ

學生彙報

千里山學友會委員並

選手任命式舉行

去月二十七日午後一時から、千里山學友會委員並に選手任命式を本學千里山學舎に於て舉行した。

當日山岡會長は餘儀なき事情の爲め缺席、依つて會則第七條に依り、宮島副會長から各部委員及び選手にそれぞれ任命書を授與し、且つ一場の訓示を與へ、次で學生代表の學友會宣誓文の朗讀があり、更に當日特に出席せられた宮本英修講師は所感を述べて學友會の圓滿なる發達を促すところがあつた。左に宮島副會長の訓示及び宮本講師の所感の概要、千里山學友會宣誓文、千里山學友會會則、同會各部部長、委員、選手名を順次掲載する。

宮島副會長訓示

教育の目的が教室内での講義だけで達せられるものさ考へるのは間違であつて、學生側に於ける種種のオーガニゼーションに相俟つて初めて完うせらるべきものであると思ふ。而して學友會の如きはここに所謂オーガニゼーションの最たるものと言はなければならぬ。即ち學生各自が、自分達のオーガニゼーションを組織して、學生生活をエンジョイするの機關となし、又この方法に於て多衆を統一して行く云ふことは、聽て大學教育を終つた後に於て、直ちに實社會に應用し得るものである。一層具體的に言へば、本學の學友會は、自治てふプリンシプルの上に立つてゐる

のであるから、今この自治に成功する云ふことは、同時に諸君が實社會に出て完全な自治を行ふ指導者たり得る資格を有するところを證明される譯さなるのである。

凡そ人は各個性を有するものである。同じ學生でもそれぞれ趣味を異にしてゐる。即ち或者は運動に熱心であり、他の或者は文藝を嗜好する。従つてこの趣味、個性の異同に依つて學友會の中にも分野を生ずるに至るのは當然であつて、これ等が互に相補ひ、相調和し、渾然たる學友會てふ一大オーガニゼーションを作り上げるべきものである云ふ點から見て寧ろ結構なところである。

大學生の運動に就ては多少の議論がある。今思ひついたことを言ふと、フランスでは大學生間に於ける運動が、從來英米等に比して盛でなかつたのであるが、大戰後に至つて非常に盛になつて來た。これを見たパリ大學總長アッペール博士は、『研究運動は兩立出來ぬものではない。併しながら後者の爲めに前者を犠牲にしてはならぬ』と言つて學生を警めた云ふことを新聞が報じてゐる(本誌第十一號第八頁参照)。ここに於て私は選手諸君に一言したい。一體研究研究云ふが、講義を聴いたり、机にかざりついたりしてゐる云ふことだけがそれほど貴いことなのか。運動に熱中して、いくらか研究を怠る云ふことが、或論者の云ふやうに非常に批難すべきことなのか。私は思ふ、研究するばかりで立

派な人間になれるものではない。選手はそのゲームズ等に於て、一生懸命にその敵を敗つて勝ち誇らうとする。自分が誇るばかりでなく、學友會——引いては學校の聲譽の爲めに努力する。この一生懸命さは、書物を讀む時の如何なる熱心さよりも遙かに勝り、到底その比でないと思ふ。人間は眞剣でなくてはならない。事に當つて文字通り一生懸命でなくてはならぬ。研究云ふことが、人間をして一生懸命ならしめるだけだけのことを教へるであらうか。換言すれば、或意味に於ては書物ばかりを讀んでゐるよりも、一生懸命になり得る修養をする方が、人間としてそれだけ貴いか知れないのである。尙ほ換言すれば、一度や二度落第しても、右のやうな美德の涵養をする方が貴いことであると言ひ得るのである。その他運動に依つて、フエアーネス、團體的協力心等の修養の如く、書物の上では讀み習ふことの出来ないことを多く與へられる。故に運動云ふものを、爾く研究の邪魔になるものとして批難してはならない。否寧ろ選手諸君は運動の間、外では得難い種類の修養が出来るのである。願はくば、大いにこの點に注意されて、最も優越せる選手たられんことを希望する。

以上は主として運動の方に就て言つたのであるが、文藝の方でも同様である。各委員諸君の努力に依り、兩兩相俟つて全體としての本學學友會の發達に盡力せられんことを切望して已まない。

宮本講師所感

一體私は中學、高等學校、大學を過去の學生時代を通じて、何一つ運動をするでなく、又

然れば云つて格別勉強をするでもなく、まるでトコロテンのやうに推し出されて來たことがない。唯學友會のことを研究したいとは思つてゐるが、それを研究したこともない。だからかう云ふ席上で談すのには遺憾ながら最も不適當な人物であるが、強制されて已むを得ずここに一二所感を述べる次第である。従つてその所感極く素人の見た學友會に關するところを斷つて置く。

今貰つた會則の第五條を見るに、本學の學友會は文藝部と運動部に大別され、更に各細分せられてゐるやうである。御承知でもあらうが、過般某大學に於て軍事研究團云ふものが出來た。然るに同じ學生である新思想の持主等がこれに反對し、遂には賛否兩者の間に腕力の争闘をさへ惹起し、而もそれが學友會の運動部と辯論部の争になつたやうに新聞で聞いてゐる。誠に遺憾なことであるが、これはその某大學に限らず他に於てもあり得ることであると思ふ。

人間は各趣味を異にしてゐて、文藝を好む者もあれば、又運動を好む者もある譯である。従つて互に他人の地位をよく理解し、己れを以て人を率ふることなく、圓滿に學友會を纏めて行かなければならぬであらう。各部の間に於ける豫算の取合の如きもよく聞くところであるが、己れを尊ぶと同様他人をも尊重する云ふことを心掛けてゐたならば、右のやうな醜い争闘を見ることなく、學友會全體が圓滿に發達して行くのではあるまいかと思は考へるのである。

學友會宣誓文

今日學友會宣誓式ニ方リ副會長初メ教職員諸先生ノ御臨場ヲ忝ウシ本會ノ最モ光榮トスル所ナリ吾ガ學友會ハ懇切ナル副會長ノ訓辭ヲ體シ本會會則ノ本旨ニ則リ學生一同一致協力本會ノ主旨ヲ全ウシ以テ益本學ノ名聲ヲ發揚センコトヲ期ス

右宣誓ス

大正十二年九月二十七日

千里山學友會

第一條 本會ハ關西大學千里山學友會ト稱ス

第二條 本會ハ會員相互ノ親睦ヲ計リ健全ナル精神身體ノ修養ニ努メ以テ關西大學建學ノ主旨ニ基ケル學風ヲ興振スルヲ以テ其ノ目的トス

第三條 本會ハ關西大學ノ監督ヲ受ケ其ノ本部ヲ千里山學舍内ニ置ク

第四條 本會ハ大學令ニ依ル關西大學ノ學生及ヒ教職員ヲ以テ組織シ前者ヲ普通會員後者ヲ特別會員トス

第五條 本會ハ第二條ノ目的ヲ達成スルタメ文藝部並ニ運動部ヲ置キ更ニ左ノ各部ニ分テ普通會員中ヨリ部長及ヒ選手ヲ定ム

- 一 文藝部
- (イ) 辯論部 (ロ) 雜誌部
- 二 運動部
- (イ) 相撲部 (ロ) 野球部 (ハ) 庭球部 (ニ) 陸上競技部 (ホ) ア式蹴球部 (ヘ) フ式蹴球部 (ト) 武術部 (チ) 拳闘部

第六條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

- 會長 一名
- 副會長 二名
- 部長 若干名
- 委員 若干名
- 會計主任 一名

第七條 會長ニハ關西大學學長又ハ總理事ヲ、副會長ニハ關西大學事務理事ヲ推ス

部長ハ特別會員中ヨリ各部長之ヲ推シ會長之ヲ任命ス

委員ハ普通會員中ヨリ選出シ會長之ヲ任命ス 會計主任ハ關西大學千里山學舍會計主任ニ之ヲ囑託ス

第八條 部長及ヒ委員ノ任期ハ一ケ年トス

部長及ヒ委員ニ缺員ヲ生シタルトキハ第七條ノ方法ニ依リ之ヲ補充シ其ノ任期ハ前任者ノ殘期トス

第九條 役員ノ職務左ノ如シ

會長ハ本會ヲ總理ス 副會長ハ會長ヲ補佐シ會長差支アルトキハ之ニ代ル 部長ハ各部ノ事業及ヒ會計ノ監督ヲ爲シ部長及ヒ選手ヲ指導ス 委員ハ各部ニ所屬シ部長ヲ補ケ 部長ト協力シテ事業ノ遂行ヲ計ル 會計主任ハ本會ノ會計事務ヲ掌ル

第十條 本會委員會ハ會長之ヲ召集ス 委員會ハ各部長及ヒ各部長委員ヲ以テ組織ス

第十一條 本學學生ハ入學ノ際本會入會金トシテ金五圓ヲ支出スルモノトス

普通會員ハ毎月金壹圓ノ割合ヲ以テ每學期ノ初メニ會費ヲ納入スルコトヲ要ス 入會金ノ元利ハ本會基本金トシテ積立テ會費及ヒ其ノ預金利息ハ次年度ノ事業費ニ充當ス

第十二條 會計年度ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第十三條 毎年度豫算ハ委員會ニ於テ之ヲ決定シ會長ノ許可ヲ受クルモノトス

第十四條 基本會ノ支出ハ委員會ニ於テ部長及ヒ委員總數ノ十分ノ七以上ノ同意ヲ以テ議決シ且ツ會長ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第十五條 物品購入其ノ他ニ關シ金錢ノ支出ヲ爲



(照參事記號前)傳宣車動自の隊遊山會友學山里千

正當ノ事故ニ依リ領收書ヲ得ルコト能ハサルトキハ之ニ代ルヘキ保證書ヲ前項ノ手續ニ依リ提出スルコトヲ要ス

第十七條 部長委員及ヒキヤブテンハ物品購入簿及ヒ金錢出納簿ヲ作成シ毎月一回會長ノ檢閱ヲ受クヘシ

第十八條 各部ノ會計報告ハ毎月一回適當ノ場所ニ揭示ス

第十九條 會計主任ハ會計原簿及ヒ領收書ヲ三ケ年間保管スルモノトス

第二十條 會則ノ變更ハ委員會ニ於テ部長及ヒ委員總數ノ三分ノ二以上出席シ出席者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ要シ會長ノ認可ヲ得テ施行スルモノトス

附則 本會ハ大正十二年六月二十三日ヨリ之ヲ施行ス

各部部長

文藝部 辯論部長 教授 小泉 幸治

雜誌部長 教授 服部 嘉香

運動部 相撲部長 講師 賀來 俊一

野球部長 教授 岩崎 卯一

庭球部長 教授 村上 喜貞

陸上競技部長 講師 櫻井 匡

ア式蹴球部長 教授 水谷 揆一

フ式蹴球部長 教授 中村 鄧次郎

武術部長 講師 福田 宗延

拳闘部長 講師 賀來 俊一

各部委員並ニ選手

文藝部委員 辯論部 小林大三郎、植野壽夫、米田浩三

雜誌部 岡田利雄、黒坂嘉徳、中村良之

者に主將及びマネージャーの協議を経て選手たる資格を認め、選手章を交付することとし、尚ほこの記録に達せずとも陸上部員たらんことを希望する者の入部を歓迎することとした。

因に來春日本を代表してパリに開かれるオリンピック大會に出場すべき選手の豫選會も近近開かれるので選手一同は猛練習を續けてゐる。尚ほ近隣驛傳競走を企てんとして協議を重ねてゐるが、學友諸君多大の聲援と同情を希望してやまぬ。

岡山縣人會 遊説

近年健實なる發展を遂げつつある福島岡山縣人會では、去る夏期休暇中八月十五日より、同縣下數箇所にて第四回文化講演會を開催し、各地新聞の後援もあつて非常な成功を収め得た。因に出演辯士並びにその演題は左の通りである。

- 一、開會の辭(幹事尾崎秀次郎君)、清き人生の陰影(法科藤木龜君)、熱血漲る吾人の双腕(經濟科島村富夫君)、法制一新の秋(法科淺野樹雄君)、社會的紛糾の過渡期に際して(商科中山幸市君)、ヒマラヤ山上飛雲に就いて(經濟科杉山志敏君)、世界の黎明と十字架上の英米(經濟科尾崎秀次郎君)、特別講演(辯士柴田勇助氏)、特別講演(講師高木益耶氏)、閉會の辭(幹事杉山志敏君)

專豫同窓會成立

今度専門部豫科出身者の間に專豫同窓會が設立された。會則、役員も略決定して、近く創立記念大會を開く由であるが、かねて專豫自治會の發展も既報の通りであり、専門部豫科を中心とする種種の活動は近時特に目覺しいものがある。

大學豫科二年級の觀月會

| 關西大學陸上競技部 標準記録 | | |
|----------------|---------------------|--------------|
| TRACK | | |
| 100 mr. | 11 | 秒 |
| 200 mr. | 24 | 秒 |
| 400 mr. | 57 | 秒 |
| 800 mr. | 2分15 | 秒 |
| 1500 mr. | 5分 | 5分 |
| 5 mile | 33分 | 33分 |
| 10 mile | 65分 | 65分 |
| Low Hardle | 28 | 秒 |
| High Hardle | 18 | 秒 |
| FIELD | | |
| Jump. | High jump | 5呎 3吋 |
| | Broad jump | 19呎 6吋 |
| | Hop speg jump | 40呎 |
| | Pole jump | 10呎 |
| | Standing High Jump | 4呎 |
| | Standing Broad jump | 9呎 6吋 |
| Throw. | Hammer throw | 30mr. (16封度) |
| | Javelin throw | 40mr. |
| | Discus throw | 30mr. |
| | Shot push | 10mr. (16封度) |

本學大學豫科第二學年級には夙にクラス會が組織せられてゐて、全級一致の下に演說會、討論會その他有意義な會合をしばしば催しつつあるが、去月二十六日の如きも千里山高臺に於て觀月會を催すことを議決し、同日授業終了後學内に集合して、各自純真な氣焔を擧げること數時、後附近の高地に上り、いざよひの月の出初めを充分に觀賞し、午後八時半學歌を高唱しつつ散會した。因に當會には講師辰巳經世氏も出席參加した。

附關西甲種商業學校彙報

第二學期始業式舉行

九月一日午前八時から第二學期始業式舉行、同十時閉式後市内今橋ホテルに於て職員親睦會を開催、垂水主事を初め本校教職員並に關西大學から宮島、柿崎兩事務理事、木下幹事、木戸秘書及び今回渡歐に決した同學岩崎教授も參加せられ一同晝餐を共にした。

關東地方震災義捐金據出

關東地方の大震災に關し本校は九月三日早速義捐金據出の議を決し、六日本校職員生徒一同の名義を以て金四百五拾圓を大阪市社會課に依託した。

職員會開催

九月二十二日午前十時から左記各件に關し本校職員會議を開催した。

- 一、陸上大運動會當分延期の件
- 一、秋季修學旅行の件
- 一、生徒辯論大會開催許可の件
- 一、關東震災生徒入學許可の件
- 一、相互通告票忘者取締の件
- 一、校外生徒取締實行方法の件

教員 移動

左記兩氏を新に本校講師に招聘した。
神戸高等商業學校教授 渡邊 撫松氏
京都繪畫專門學校卒業 伊村 啓三氏

第一回競算大會開催

去月十五日午前十時三十分から本校講堂に於

て第一回競算大會を開催したが、その主なる成績は左の通りである。

對級競技第五回—一年三組(五點)負、二年二組(六點)三年一組(三點)勝、四年三組(一點)
對級競技最終回—二年二組(二點)勝、三年一組(一點)

個人競技第三回合格者—一年級谷口(四點)、二年級清光(三點)、同若槻(四點)、三年級井原(三點)、同山下(三點)、四年級和田(三點)、同小山(四點)、同駒澤(四點)

個人競技第五等決勝—二年級清光(三點)、三年級井原(三點)、同山下(四點)、四年級和田(三點)個人競技第一、二、三、四等決勝—四年級小山(三點)、一年級谷口(一點)、四年級駒澤(〇點)、二年級若槻(〇點)、駒澤、岩槻再戦の結果駒澤二點を得て三等に、岩槻一點を得て四等に決定す)

結局當日の受賞者は左の通りである。
對級—二ノ二(一等)、三ノ二(二等)
個人—小山(一等)、谷口(二等)、駒澤(三等)、岩槻(四等)、山下(五等)

創立十周年記念雄辯大會開催豫報

來る本月二十七日(土)正午より、市内天王寺公會堂に於て本校創立十周年を記念するため第一回公開雄辯大會を開催する筈、尚ほ本大會開催に就て左の如く第一部中に役員任命があつた。

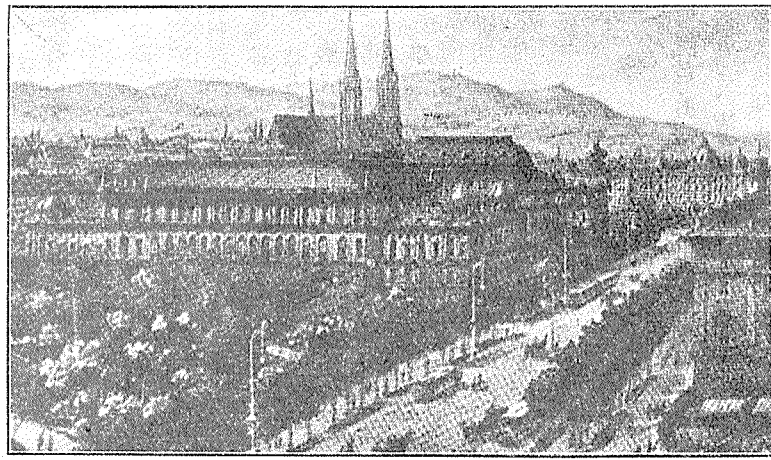
- 辯論會顧問 文學士 小泉 幸治氏
- 同 會長 本校教諭 三島 律夫氏

雜錄

エルサレム教授の逝去

ウィーン大學に於て哲學及び教育學の教授として、約三十年間も教鞭を取つてゐた有名な哲學者であり教育學者であつたエルサレム博士は、本年七月十六日六十九歳を一期とし、心臟麻痺のため忽焉して長逝せられた。

彼が初めて公にした、云はば處女作とも云ふべき「心理學教科書」(Lehrbuch der Psychologie) は多大の好評を博した。又彼の著「哲學概論」(Einführung in die Philosophie) は、非常に多くの版を重ね且つあらゆる文明國の國語に譯せられ、日本語にも譯せられてゐる。彼は教育學の實際家として、又理論家として天稟の才を有つてゐた。尚ほ彼は元來古典學者であつて、この古典學の教育上に於ける大價値を力説した。殊に彼の著「高等教育に従事する者の職分」(Die Aufgaben des Lehrers an hoeheren Lehranstalten) の如き近代に於ける教育學に關する著述中の最たるものであると言つても決して



エルサレム教授の教鞭を取つたウィーン大學

過言ではない。又聾啞ローラ・ブリッチマンに對する彼の心理學的研究も非常に價値のあるものである。又一九〇五年には、彼の論文集「思想の思想家」(Gedanken und Denker) が公にせられた。彼は晩年殊にブラグマチズムや、アメリカに於ける哲學―彼自身も亦その祖述者の一人である―上の傾移に關する研究に没頭してゐた彼の哲學は進化論的性質を有つてゐた。即ち彼は特に生物學的要素を重視するに同時に、又社會學的要素をも重視した。ウィーン大學に於ける彼の講義は各科を通じて頗る好評であり、常に多數の熱心な聽講生があつた。因に左に同教授の略歴を掲げる。

於ける哲學―彼自身も亦その祖述者の一人である―上の傾移に關する研究に没頭してゐた彼の哲學は進化論的性質を有つてゐた。即ち彼は特に生物學的要素を重視するに同時に、又社會學的要素をも重視した。ウィーン大學に於ける彼の講義は各科を通じて頗る好評であり、常に多數の熱心な聽講生があつた。因に左に同教授の略歴を掲げる。

略歴 彼は一八五四年地主の子としてオストベームの一小村ドレーニに生れた。彼は家庭に於ける教育を受け、殊に幼時からヘブライ語を教へられ、而も彼はそれをマスターした。ギムナジウムを終つてから、彼はブラグマ大學に入り、當時オット・ヒルシュフェルト及びオット・ベンド

フに依つて代表せられた古典學を修めた。ベンドルフ指導のゼミナールで彼の博士論文 Die Inschriften von Sestos und Paliolos が書かれたのである。これより二年前から彼はブラグのインシタットに於けるギムナジウムに聘せられてゐたが、このギムナジウムで講義をしてゐる間に、古典言語學より次第に哲學の方に引いて行つた彼は上級に於て心理學及び論理學を講義してゐた彼は特にウィルヘルム・ヴントの書いたものを愛讀し、遂にその學風を享くるに至つた。一八八五年彼はウィーンに於ける國立ギムナジウムに聘せられ二十二年間そこで働いた。一八八八年その處女作「心理學教科書」を公にし、一八九〇年聾啞ローラ・ブリッチマンに對する研究を公にした。この研究に依り彼はウィーン大學の講師となつた。彼はオーストリーに於ける代表的哲學者の一人として、その高名を内外に博したに拘らず、三十年間講師として働き一九二〇年に至つて、漸く副教授に昇進した。一八九五年心理學並に認識論的研究たる「判断の機能」が公にされたが、同著に於て彼は言語の發達に關する根本理論を説いてゐる。

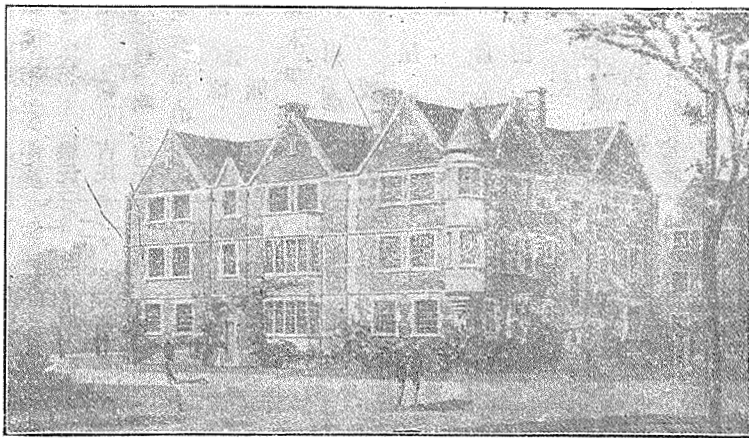
尚ほ同著に關し哲學者エルンスト・マッハは「この書に依り、私はサブジェクトとプレディケートの意味が、初めて正確に解つた」と言つてゐる。一八九八年公にされた哲學概論が非常に多くの版を重ね、又多くの國語に譯され日本語にも譯されてゐることは前述の通りである。一九〇七年彼が恩給年齢に達して以後この年勅任になつた。彼は専らその専攻のアルバイトに没頭することが出来るやうになつた。これまでは他に多くの時間を割愛しなければならなかつた。それは彼は全く無産であつたので、一家族の生活を維持するために彼方此方の學校の掛持をしたり或は私宅教授等に忙しかつたからである。一九一〇年以來彼の研究は社會學的方面に傾いたその研究の結果が有名な著書「認識と社會」(Erkenntnis und Gesellschaft)

になつて表れてゐる。この著述あつて以來、彼の公にしたすべての論文等には、社會學的傾向を帯びないものはなくなつた。即ち「社會學上より觀たる戦争」(Der Krieg im Lichte der Gesellschaftstheorie) 「道徳的發展の方向」(Richtlinien des Moralischen Fortschrittes) 等皆然りである。彼の最後の大作は叢書 Die Philosophen der Gegenwart in Selbstarstellungen 中に於ける彼獨特の學說である。ウィーン大學に於ける彼の努力は、全ウィーン市民を感激せしめて、多くの市民が彼の門を叩き教を乞ふた程であつた。尚ほ彼にはホーマーの詩あり、デモステネスの辯あり、タチツスの文あり、シラーのドラマ並にその詩あり。大學に於ける彼の講義は恰も音樂の如く、一度これを聽いた者は永久に忘れることが出来なかつたこのことである。彼の前述の通り心臟麻痺で急死したのであるが、その死の迫るまで極めて活潑に研究に餘念なく、死の前日(土曜日)の如きは其の妻カッテン夫人に友人マックス・プロットの近著、ユダヤ教、クリスト教及び異教」に就てその意見を述べ、盛に氣焔を上げてゐた。翌日曜日は例に依り早朝六時に起き、極めて上機嫌で夫人と相語つてゐた時急に卒倒して遂に不歸の客となつてしまつたのである。彼はガッテン夫人とは、四十五年間の永きに亘つて平和な家庭を作つてゐたが、而も彼の研究が少らず彼女に依つて助けられたことは、彼の著「思想と思想家」の如き夫人にデディケイトしたものであるのにも明かである。彼に二男一女あり。長男は現にウィーンの高等商業學校の教授であり、次男はウィーン地方裁判所の判事、長女はヒーテング高等女學校の教師を勤めてゐる。

因に同教授の原著である Introduction to Philosophy は現に本學大學豫科三年に於て櫻井講師に依り講ぜられてゐる。

男女共學制の實施に因んで

今回本學では、いよいよ男女共學制を實施することとしたところが、早速聽講生として一人の婦人がはいつて来た。我國でも既に一二の大學では、この男女共學制を實施してゐるが併し未だ物珍しがられてゐる。こんなことを若し西洋人が聞いたなら定めし嗤ふであらう。と云ふのは、男女共學制は今日西洋では極めて普通なことであるのは勿論、そもそも世界に於ける最初の大學と云はれてゐるポロニア大學(一〇〇〇年設立)では、今から八百何十年前既に男女共學を實行してゐたからである。即ち同大學では初めから女子も男子と同じ條件で入學させ、同じコースを取らせ、同じ稱號を與へ、時に或はプロフェッサーにまで任命したこともある。前に言つた本學最初の女子聽講生は、法律の講義を選擇して聽いてゐる。そしてそれが又不思議がられてゐるが、ポロニア大學でも最初婦人に最も喜ばれた學課が法律であつたことは面白い因縁である。而して同大學出身者の最初の婦人辯護士は、かの有名なバチチア女史であつたと云ふ。尙ほ當時右女史の外同大學出身の婦人辯護士は澤山あつたが、中にも珍らしいのは或貴族の家の母親と、その二人の娘と都合一家三人揃つて辯護士をしてゐたさうである。この話は今なら西洋では珍しくないが、ポロ



ニア大學設立當時から二〇〇年代にかけての、随分古い話である。

エール大學諸競技部の收支

最近公表せられた、一九二二年六月を終りとする一年間の報告に○るに、エール大學體育協會に管理せられてゐる二十種の事業部の中で、唯フットボール部のみが全く費用自給である由である。他の多くの競技部の中ではベースボール部が最も自給に近く、ポート部及び陸上部が一番費用が嵩んでゐる。

部一の境生學リパるゼ成竣

同協會は一九二一年度の収入七一八、五九九弗と報告したが、諸経費が六五〇、三二〇弗あつて、差額の純収入六八、二七九弗は大學の支拂つた立替金の返済に充當された。同協會は一九二二年六月三十日に於ける現金の差引手許有高を八、三三七弗と報告した。

フットボール部は合計五〇〇、〇〇〇弗以上を收得し、その中四九五、六七一弗は入場料収入であつた。併し費用二九四、三八〇弗を要して居り、その中には遠征チームや練習及びボールの維持に要する費用が含まれてゐる。フットボール部の剩餘は二三五、〇〇〇弗と報告されてゐる。

ベースボール部の収入は七七、〇〇〇弗、費用は七八、〇九六弗であつた。其の他の部ではホツケー及び水泳の兩部だけが收支最も相近かつた。ホツケー部は収入三五、四五五弗、費用四〇、五〇九弗と報告され、水泳部は収入五、二五一弗、費用七、七一九弗と稱せられてゐる。ポート及び陸上部は兩者共大不足を示してゐる。即ちポート部は九、七一六弗を収入して五六、四二四弗の費用がかかり、陸上部は収入四、三二一弗、支出三九、三五一弗と報告してゐる。バスケットボール部は可成りうまくやつて七、三九一弗の収入と一三、八八八弗の支出とを報告してゐるし、テニス部は収入三、二五九弗、費用七、三二一弗である。

最近のニューヨークタイムスより

轉居一束

本學教授中村鄧次郎氏は、大阪府豊能郡豊津村垂水八九六柴田方へ同講師山村喬氏は、大阪府三島郡千里村千里山住宅一八四號へ同講師辰巳經世氏は、大阪府三島郡吹田町二七二三番地へ何れも轉居した。因に右山村講師が今回新に居を下した千里山大阪住宅經營株式會社經營住宅には、既に本學福田講師も在住し、又新歸朝本學講師沖中恒幸氏も最近同所に居を置き、尙ほ本學校友諸氏の中にも同所居住者がかなりあり、かう云ふ意味に於ても本學との關係が次第に密接になりつつある。

千里山短歌會詠草

雨霽れのグラランドに出で友さふたり大聲あけ

て校歌うたへり
學び舎の木木のみぎりは五月雨のそほ降るご
こにつやだちて見ゆ
真木曙人

君見ればこころさきめく淋しくも朽ち果てし
戀ご思へごもなほ
わが涙かりそめならずくれなるに燃ゆるがご
さくうるみいづるも
小串久男

をさな兒の澄める心をそのままに尊くは見ゆ
静けきまなざし
夜ごご聞く蛙のこゑの親しけれ興がり聞きつ
書讀みあかず
高原草路

疲れたる身をばささへて歸り來れご人氣なき
家妻死せる家
音もなく梨の葉は散る秋さいふに妻なきわれ
に音無きが淋し
清家ただいち

ごよめける小さな人の世の上を月冷かに歩ん
でゆけり
狂ほしく夢に目ざめし床の上にさかけを見た
りくらき電燈
上木樂羊

ぬか雨のあかるさに見ゆ遠木立心しづけくう
ちむかふわれ
野の雨は目にもさまらず汽車に見る天王山に
雲たなびけり
吉田奎文

我が爲めに生き居る母の哀しさにけさの食事
のすすまざりけり
佛手柑青む兩國思ひけり机所巡りの少女行く
みて
服部教授

砂白き芦屋松原たまにわれひさり行き晝
の月見る

本學擴張基金附申込者芳名

(校友の部) (イロハ順)

備考 一口金額五拾圓

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------|--------|--------|-------|--------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|--------|--------|-------|-------|--------|-------|--------|--------|--------|--------|-------|--------|----------|---------|--------|-------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|---|
| 四 | 一 | 一 | 一 | 二 | 二 | 二 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 二 | 六 | 一 | 四 | 二 | 一 | | | | | | | | | |
| 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | | | | | | | | | |
| 三五法 | 同 | 葛志家 | 開甲卒 | 講師 | 元講師 | 講師 | 九法 | 九法 | 八法 | 同商 | 同 | 同 | 一法 | 一法 | 一商 | 九經 | 九商 | 九法 | 同 | 同 | 九法 | 六法 | 四法 | 六法 | 一法 | | | | | | | | | |
| 永田良雄氏 | 榎崎平太郎氏 | 長岡美智子氏 | 中村登氏 | 中村秀光氏 | 長田敬房氏 | 中村唯一郎氏 | 根岸信氏 | 根上信氏 | 根岸元氏 | 塚本利三郎氏 | 辻本安石氏 | 辻本二一氏 | 鶴田利三氏 | 坪倉春次氏 | 椿屋明至氏 | 津屋敬之氏 | 津田彦信氏 | 塚本伊三郎氏 | 堤熊治氏 | 辻德藏氏 | 塚本萬治郎氏 | 辻村政治氏 | 堤新吉氏 | 薦谷巖氏 | 亡樋間市三郎氏 | 一〇法 | 十河政一氏 | | | | | | | |
| 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 三 | 一 | 一 | 一 | 一 | 二 | 六 | 六 | 六 | 一 | 一 | 一 | 五 | 六 | 六 | 一 | 一 | 二 | 二 | 一 | 二 | 二 | 一 | 三 | 三 | | | |
| 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | | | |
| 同商 | 同 | 同 | 八法 | 同 | 同 | 七法 | 同 | 六推 | 同 | 五法 | 四法 | 同 | 推 | 同 | 同 | 六二法 | 同 | 同 | 四五大法 | 四二法 | 四一經 | 同 | 同 | 同 | 三九法 | 同 | 同 | 同 | 三七法 | 三五法 | | | | |
| 名越虎治郎氏 | 中岡榮一氏 | 長尾久助氏 | 中谷良夫氏 | 中山豐三氏 | 仲野英一氏 | 中野榮次郎氏 | 中村光治氏 | 中田克巳知氏 | 中村新三郎氏 | 中村安一氏 | 中村國夫氏 | 中村三德氏 | 中務平吉氏 | 中村公男氏 | 中塚正信氏 | 永野五郎氏 | 内藤滋治氏 | 中原健造氏 | 中島定五郎氏 | 中村敏雄氏 | 中江村治郎氏 | 中村守氏 | 中村虎次郎氏 | 亡中平田小太郎氏 | 長本元男氏 | 永田宗太郎氏 | 中江濟氏 | 中野彌三郎氏 | 中島昌平氏 | 中川與之助氏 | 内藤正剛氏 | 中村健吉氏 | | |
| 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 二 | 一 | 一 | 一 | 一 | 三 | 一 | | | |
| 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | | |
| 同 | 同 | 同 | 一商 | 同 | 同 | 同大商 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 一〇經 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 一〇法 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 九法 | 同 | 同 | | | |
| 長谷丈太氏 | 中村文夫氏 | 中村幸七氏 | 仲村幸七氏 | 長阪哲二郎氏 | 中村峰藏氏 | 中上正雄氏 | 長田喜代馬氏 | 並平生駒氏 | 中原千鶴氏 | 永野勝重氏 | 永石光雄氏 | 中島博道氏 | 中村三之助氏 | 中田忠次氏 | 中村島市氏 | 中谷五一郎氏 | 中内秀次氏 | 梨岡時之助氏 | 中村貞雄氏 | 内藤芳太郎氏 | 中川八百八氏 | 中野德司氏 | 中川庸太郎氏 | 中村周介氏 | 永井量一氏 | 長岡時光氏 | 仲島忠次氏 | 仲井彌三郎氏 | 中村源次郎氏 | 中村豐商氏 | 中村源次郎氏 | 永松治郎氏 | 中西泰一氏 | |
| 五 | 六 | 一 | 二 | 二 | 一 | 一 | 一 | 六 | 三 | 四 | 一 | 二 | 一 | 二 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | |
| 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 |
| 四三法 | 二三法 | 四法 | 講師 | 四三法 | 四二商 | 八法 | 五法 | 三法 | 講師 | 理事 | 六法 | 推 | 一〇經 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | |
| 竹井小野右衛門氏 | 武内作平氏 | 奥村乙吉氏 | 吉野謙吉氏 | 田村清吉氏 | 長義道氏 | 河田逸重氏 | 金丸多聞氏 | 片山義忠氏 | 川崎齊一郎氏 | 柿崎欽吾氏 | 渡邊保興氏 | 渡邊菊之助氏 | 加(一)之 | 村山春喜氏 | 宗本利市氏 | 向田清三氏 | 村尾靜明氏 | 村田與治郎氏 | 亡室田勇治氏 | 村上春藏氏 | 村松岩吉氏 | 室石秀光氏 | 中村直一氏 | 長岡實氏 | 中谷岩夫氏 | 中村春三氏 | 中西靜麿氏 | 永井嘉吉氏 | 中村嘉助氏 | 中村良之助氏 | 長久保昇氏 | | | |

(以下次號)

(Continued from p. 20, No. 5 of the Bulletin)

for supporting Kansai University, was appointed the Chairman of the Executive Committee of the University to take the place of the President, and K. Kimura, President of Ujigawa Hydroelectricity Company, came after him as the President of the said Association.

On June 5 of the same year, the establishment of a university under the Regulations governing public and private universities was granted by the Minister of Education, and the first entrance examination having been held in the beginning of the same month the instructions of the new University began at the latter part of the month in the University buildings at Senriyama, then partially finished, the construction of which was started in February of the preceding year.

Almost all the University buildings and belongings excepting the Preparatory School building are yet in course of construction. The work is hurried on night and day, with the prospect that they will be completed by the Thirty-English Anniversary of the foundation of the University, viz. December 13, 1923.

Agreement

of

Kansai University, Foundational Juridical Person.

It is agreed that in the interpretation of the following Articles, "THE UNIVERSITY" shall have the meaning of "KANSAI UNIVERSITY, FOUNDATIONAL JURIDICAL PERSON."

Article 1.

OBJECT.

The present Foundational Juridical Person, having taken over all the undertakings of the former Kansai University, Corporate Juridical Person, has for its objects the teaching of the sciences of law, of politics, of economics and of commerce, and the prosecution of original research in such sciences, together with the cultivation of character.

Article 2.

NAME.

The present Foundational Juridical Person shall be called "Zaidan Hojin Kansai Daigaku" (Kansai University, Foundational Juridical Person).

Article 3.

OFFICE.

The Office of the University shall be located at no. 121, Kitachome, Kamitukushima, Kita-ku, Osaka.

Article 4.

PROPERTIES.

All properties belonged to the former Kansai University, Corporate Juridical Person, constitute the assets of the University.

Article 5.

The expenditures of the University shall be defrayed from the revenues which fundamental properties may yield, students' fees, donations and other incomes.

The fiscal year of the University shall commence on the first day of April and terminate on the last day of March of the ensuing year.

Article 6.

All properties of the University shall be administered by the Executive Committee, and cash and securities shall be deposited in a reliable bank or banks, and the Executive Committee shall have charge thereof.

Article 7.

OFFICERS.

The University shall have an Executive Committee composing of not less than three nor more than seven members, and also the Board of Auditors numbering less than three.

Article 8.

The members of the Executive Committee and the Auditors shall be elected from among the Trustees.

Article 9.

There shall be one chairman of the Executive Committee and one or two active administrators, both of whom shall be elected from among

the members of the said Committee.

The Executive Committee shall dispose of all the business of the University, acting upon decisions reached at the meetings of the Trustees.

Article 10.

The Executive Committee may appoint the President of the University and vest in him the academical affairs.

Article 11.

The Auditors shall supervise the financial affairs and business conditions of the University, and, should necessity require it, may call the meeting of Trustees, to which they shall submit the reports on the same.

Article 12.

The members of the Executive Committee and the Auditors shall hold office for three years and until their successors are duly appointed, and may be eligible for reelection.

Article 13.

Vacancies among the members of the Executive Committee and the Auditors shall be filled, for the unexpired portion of the term of the office in which any vacancy may exist, at the next ensuing annual meeting of Trustees.

Article 14.

TRUSTEES.

There shall be from twenty to fifty Trustees in the present Juridical Person.

The Trustees shall be elected from among:

- A. The Councillors, Professors or Lecturers of the University.
- B. Those who have formerly had one of the qualifications prescribed in paragraph A.
- C. The Alumni.

Article 15.

The Trustees shall deliberate on and determine matters of importance concerning the University.

Article 16.

The Trustees shall hold office for life.
Vacancies in the office of Trustees shall be filled by a two-thirds vote of their number.

Article 17.

Any Trustee shall be liable to expulsion, by resolution at the meeting of Trustees, for any reason which is prejudicial to the interests of the University.

The expulsion mentioned in the foregoing paragraph shall only be effected by the consent of more than two-thirds of the whole number of Trustees.

Article 18.

COUNCILLORS.

The University shall have a certain number of Councillors.
The Executive Committee may appoint Councillors from among the persons of distinction giving support to the University.

Article 19.

ALUMNI.

The Alumni shall be either the graduates of the University or those specially appointed by the Executive Committee.

Article 20.

MEETINGS OF TRUSTEES.

The meeting of Trustees shall be of two kinds, namely, ordinary and extraordinary meetings.

Article 21.

The Executive Committee shall call the ordinary meeting of Trustees once a year in December and make reports on business and financial conditions, and also submit thereto the budget for the ensuing year for their consent.

Article 22.

Either the Executive Committee or the Board of Auditors shall

call an extraordinary meeting at any time they think necessary.

The Executive Committee shall at any time call an extraordinary meeting upon requisition of one-fifth or more of the whole number of Trustees, expressing specifically the object for which the meeting is proposed to be called.

Article 23.

In order to hold the meeting of Trustees, three days' notice at least specifying the object of the meeting, shall be given to the Trustees in writing.

Article 24.

No business shall be transacted at the meeting of Trustees, unless there shall be present five or more Trustees.

The decisions at the meeting of Trustees shall be taken by a majority vote of the Trustees present.

If the required number of Trustees shall not be present, a provisional decision may be arrived at by a majority vote of the Trustees present, and, in case the quorum is sufficiently constituted, by adding the Trustees absent who gave consent to the same afterwards, the decision shall hold good.

Article 25.

One of the members of the Executive Committee shall be Chairman of the meeting of Trustees, and in case the members of the said Committee are absent or unable to act, the Trustees present shall choose one of their number to be Chairman.

Article 26.

Any Trustee, who shall have a special interest at the meeting of Trustees, shall not be entitled to vote.

Article 27.

AMENDMENTS.

Amendments to this Agreement may be made by two-thirds vote of all the Trustees and also with the approval of the Minister of Education.

(第四頁より續く)

銀行家等が少くない。一般人には外國貨幣を以てする所の取引は禁じられて居ても、これ等大實業家は色々な理由の下に於いてそれ等が出来ることになつて居る。一般人は従つて貯蓄することをも困難になつて居ても——即ちマークで貯蓄しても數週後には何等の値打もなくなつて了ふからである——これ等の人の富は無限に増加して行くのである。

かくの如く一般人の生活難はその極度に達して居て、普通の家に於いて、肉は一週間に一回しか食はず、本物のバターは買はずにマガリネを代用物を使用する。コーヒーをのますに麥湯に似たものを代りにのむ。立派な顔をした紳士が電車や汽車の中で、中食代りに黒パンにバターかマガリネの塗つた奴を食つて居るのを非常に屢見受ける。この生活難の激しい間に分配の不公平は益々大きくなつて行つて夜のベルリンは遊び場に於いて随分陽氣に賑ふのである。これ等恐ろしい經濟的變調、國民經濟生活の混亂は、同時に道徳生活の救ふ可からざる墮落として現はれて居る。結婚の希望を失つたと言ふこと、いくら働いても食へないと言ふこと、一方に相場成金等が續出すると言ふこと、これ等の事情は極めて多くの婦人をして身を低くせしめないではおかない。獨逸に性的道徳は姿を隠したと言ひ得るかも知れぬ。(但しこの點は戦後の佛國ある程度迄は英米に於いても言はれるかも知れぬ) 竊盜、殺人、自殺、詐偽その他一切の罪惡はこれに從つて増加しなければならぬ。

は背れ得る順序である。かくて自暴的浪費、自暴的性的道徳的亂行それに加ふるに益重くなる所の政府への納税は、いやが上にも國民の精神を尖らし國民の心を重くするのである。以上によつて極めて簡單にして粗雑ながら獨逸現狀の一端を御話したものとす。國が衰微することは枯木の倒れるが如くに、かくも抽象的な氣安なものではなくして、吾々が今生けると同じやうな感情や意向を持つてゐる所の國民一人一人が毎日毎日死の苦しみの中に悶ねながら、希望のない明日への生活を續けること、この悲惨な幾千萬の人等の生活が急激に衰微する國の内容である。吾吾はこの氣の毒な國の持つ所の眞の内容に對して、同情を力ミを貸したいものだ。希ふ次第である。(第一學期終業式當日の講演より)

大正十二年十月十三日印刷
大正十二年十月十五日發行

不許複製

編輯兼發行人 辰巳經世
印刷者 飯田彌之助
印刷所 三有社
發行所 關西大學學報局
大阪府北區上福島北二丁目
電話 五七〇九

舊學舎 關西大學
新學舎 關西大學
大阪府外千里山
電話 吹田 一三三

大阪府近在住校友諸氏ニ告グ

例年ノ通り本學校友會大阪支部ニ於テハ近
 近中ニ本年度秋季大會ヲ開催スル豫定デア
 リマスカラ大阪府近在住校友諸氏ノ中未入
 會ノ方ハコノ機會ニ是非御入會ノ上右大會
 ニ參加セラレンコトヲ希望致シマス
 尙ホ詳細ハ本支部ニツキ御聞合セ下サイ
 大正十二年十月

大阪市福島關西大學福島學舎内

關西大學校友會大阪支部

關西大學 指定
 關西甲種商業 指定

西區京町堀上

難波洋服店

電話土佐堀二六三五番

關西大學 御用達
 關西甲種商業

文翰將軍 筆本舖 協田文章堂
 まごころ

大阪市南區天王寺大道四丁目
 電話南三九九五番

關西大學 指定
 關西甲種商業 指定

明文堂野島書店

大阪市北區上福島北三丁目
 電話土佐堀 一二八六番
 振替 大阪 三九九九一番

本學校友 野島藤次郎

天粹の與美身化粧料 蜂蜜製化粧品

純粹蜂蜜は肌を滑かに美しく整へ
 ます。
 卵やミルクより遙かに効果があ
 ります。

歐米殊に婦人界では盛んに尊重せ
 られてゐます。

半可溶性

蜜蜂洗粉

袋や布帛を用ひず肌をこすらずに
 洗へる。

高級化粧用

蜂園石鹼

延びがよいから經濟的であここの肌
 が滑かになる。
 にきび其の他皮膚病に特効がある。

無鉛

蜂園固練白粉

白くつきざんな顔色にも向く。特
 に夏のあせほをよく防ぐ。

純植物漿液に密を應用した

男女用 蜂園美髮液

毛髪を美しくしふけを防ぎ癬毛を
 正す。

使用の際散布せむ

蜜蜂齒磨

口中粘膜に作用して健康の關門を
 守る。

三越、白木屋、高島屋、十合、大丸、
 松坂屋其の他有名化粧品店、藥舖及
 び雜貨店にあります。

八幡養蜂園創製

大阪下市茶屋

謹告

店主長谷爲五郎儀今般關西大學ニ於テ學位服・教授服・學生服ヲ制定セラルルニ當リ是ガ調査研究方御下命ヲ蒙リ去ル十月六日神戸出帆ノアリゾナ號ニ乗船、米國ヲ經テ英・佛獨・白・瑞・伊ノ各國大學視察ノ途ニ上リ申候尙ホソノ研究項目中ノ一部ニハ弊店専門ノ紳士服並ニ兒童服等ノ流行及ビソノ安價提供方等モ相含ミ居リ申候間今後ノ弊店製品ハ一層各位ノ御期待ニ相叶フコトト信ジ申候

關西大學

御指定



大坂市東區上本町六丁目

長谷屋號洋服店

電話南四一五二番 振替大坂五五三八番

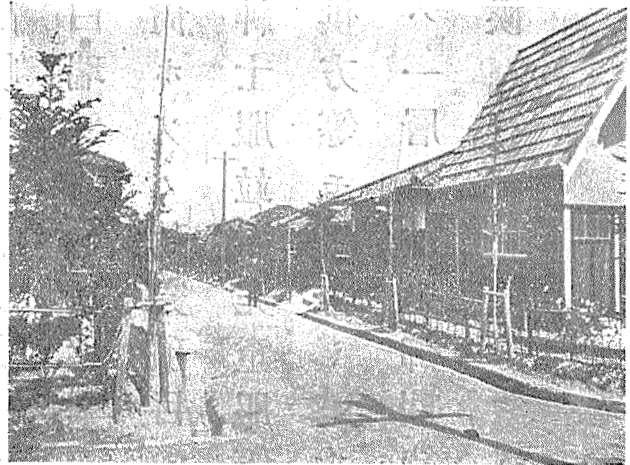
大阪住宅經營株式會社

當會社

は

千里山及鶴ヶ丘の

經營地に上水道、瓦斯、電燈等
 文化的施設の完備したる
 住宅敷地を構成し賃貸賣却等
 廣く一般の需用に應じて居りますが
 更に經營地外に於ても
 下記の通り簡易住宅に
 關する建築・土工・上水道
 等の御注文に
 應じます



千里山經營地の一部



日本式住宅

- 簡易瓦斯 [五]
- 上水道、下水道 [四]
- 庭園、遊園地 [三]
- 住宅地ノ敷地、道路、雨水溝 [三]
- 理髮店、賣店等 [二]
- 事務所、浴場 [二]
- 俱樂部 [二]
- 住宅部 [二]

以上の

測量設計施工監督

工費は實費精算とし
 設計監督料等は別に申し受けます

以上は住宅組合、銀行、會社、
 官公衛、土地會社、個人經營の
 住宅等何れも歓迎します

此の外當社は附帶事業として

【一】

- (イ) セメントブロック
- (ロ) コンクリート土管
- (ハ) 側溝石垣用等ノコンクリートブロック

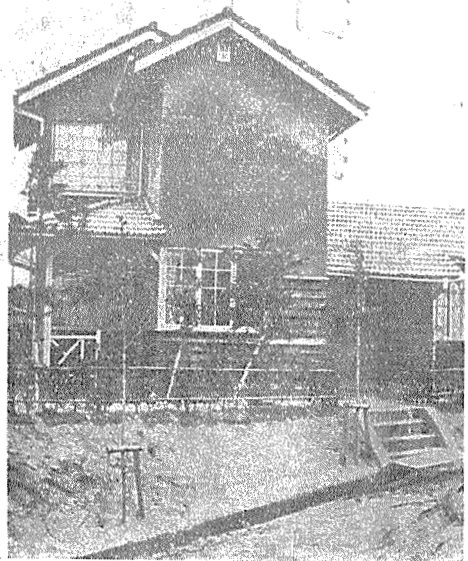
【二】

- (イ) 建築用材 (ロ) 建具 (ハ) 家具

【三】

簡易住宅の圖面、設計書

以上の製作販賣をも
 致します



改良式住宅

本社 大阪市東區北濱二丁目二七番地・千里山出張所 大阪府三島郡千里山・鶴ヶ丘出張所 大阪府東成郡田邊町字鶴ヶ丘
 (電話本局一五五三・一五五四番) (電話吹田一〇五番) (電話南二一七八番)